

【1】 ナッセ編集社 北九州市部・田川カトリック幼稚園

公共社会学科1年 穴井芹奈

私は、大学に入学し就職するにあたって、将来の夢が見つけれられるのか不安があり、今回のプレ・インターンシップに参加しました。春季プレ・インターンシップは、2月15日～19日（土日を除く）3日間、田川カトリック幼稚園にて実施しました。

1日目は、打ち合わせ、お雛様作りをした後、もも組（3～4歳児）に入り、園児と一緒に遊びました。保護者の方や先生方とも、挨拶を交わし、コミュニケーション能力を養うための良い1日となりました。また、園児たちと昼食を食べたり、話したりして楽しかったのですが、体力が必要だと実感しました。喧嘩が起きた時の対応や、残さず食べるように促す方法等まだまだ学ぶことが多いなと思いました。1日を通して、先生方の凄さを知りました。

2日目は、もも組に入り、ホール遊び、トイレ掃除を行いました。ホール遊びでは、園児の元気の良さに圧倒されましたが、楽しく取り組むことが出来ました。かけっこでは、どの子も一生懸命頑張っていて、私もパワーを貰いました。そしてトイレ掃除でも色々なことを学びました。洗剤は絶対に置きっぱなしにしないこと、なぜなら園児にとっては危険なものだからと聞き、すごく納得しましたし、先生方の責任感を感じました。保護者の方から大切なお子様の命を預かるという責任は重いですが、先生という立場である以上、果たすのが当然だと思いました。私も将来、教員免許取得を目指しているので、このことを忘れないようにしようと思いました。

3日目は、もも組に入り、トイレ掃除とお手紙作りをしました。園児が体調不良で半分近く休んでおり驚きました。2回目のトイレ掃除は慣れてきて、スムーズに終わらせることが出来ました。お手紙作りでは保護者の方に渡す手紙や配布物をクラスごとに仕分けました。その量を見て、この作業を週に2回ほど行っている先生方の大変さを知りました。私が園児の頃、知らないところでそのような苦勞があったと知ることが出来るいい機会でした。また、4日目以降は体調を崩して、プレ・インターンシップに参加することが出来ず、残念でした。体調管理も自分の新たな課題だと思いました。

最後に、夏季と春季のプレ・インターンシップを通して、感じた事を述べます。私は夏季と春季でそれぞれ全く違う職種を経験しました。それによって、自分の将来の視野を広げることが出来ました。履修する前は、ぼやっとしていた進路でしたが、自分にはこういう仕事が合っているかもしれないと、将来を再確認することも出来ました。そのため、この一年間の経験は自分にとってとても有意義なものになりました。この経験を活かして、3年次のインターンシップや就職活動に励みたいと思います。

## 【2】源じいの森

人間社会学部 公共社会学科 1年 遠藤美貴

私は去年のこの時期、自分の進路を選択する中で自分が将来何をしたいのか、どのような仕事に就きたいのか、全く想像することができませんでした。そんな時周りの人に、大学に行って自分のやりたいことを見つけるのもいいじゃないかと言われ大学に進学することを決めました。そのような目的で大学に入学したため、しっかりと自分のやりたいこと、自分に何が向いているのか、どのような仕事があるのかなど、自分から積極的に見つけていかなければならないと思っていました。そして他の1年生よりも早くそのようなことを見つけるチャンスを得ることができるプレインターンシップを受講しよう決めました。そしてプレインターンシップで具体的なやりたい職業は決まらなくても、働くこととはどのようなことなのか、どのような時にやりがいを感じるのか、どんな気持ちでお客様と接しているのか、そのようなことが少しでも分かれば自分のこれからの選択や大学生活の過ごし方に良い影響を与えられるのではないかと思います、それを自分の課題として参加させていただきました。

実際に働くことになるとやはりとても緊張し、どのように動けばいいのかわからないことが多くありました。主に受付でお客様の対応をさせていただいたのですが、普段はあまり接する機会の少ない年代の方々と対応に困惑することが多くありました。上手く笑えなかったり、仕事内容としても間違えてしまい迷惑をかけてしまうことが度々ありました。アルバイトでレジの仕事もしているので少しは慣れているから大丈夫だろうと思っていたのですが、あたふたしてしまい自分が情けないと感じました。私のアルバイト先では特にお客様と特別な会話をするわけではありませんが、受け入れ先では従業員の方がお客様を覚え仲良く笑顔で会話する姿を見ました。お客様がもう1つの家に帰ってきたような雰囲気がとてもすてきだなと思いましたし、宿泊施設ならではの温かい雰囲気なのかなと感じました。接客業のような仕事をするということは大切なお客様に楽しんでもらうのはもちろん、温かく安らぐような気持ちになってもらうことが大切なのだ学びました。

不安に思っていた私に従業員の方々はいつも優しく教えてくださりました。分からないことや間違えたことがあると何度でも、嫌な顔を一切せずに教えてくれました。積極的に話しかけてくれて、何時間も立ちっぱなしの仕事だったのですが、私の体のことまでも気にかけていただきました。本当にたくさんのお話をさせていただきましたが、大学生はこう過ごすべき、今のうちにこんなことするべきという話は参考にさせていただこうと思っています。何より1番刺激を受けたのは従業員の方々のお客様への対応力です。臨機応変にテキパキと動き、スラスラと出てくる丁寧な敬語と笑顔は完璧であり、心から尊敬しています。いつでも堂々と接しており本当にかっこよく思いました。自分もそのような方々を見習おうと目標ができ、堂々と常に笑顔で接することを心がけました。最終日には最初に比べると堂々とお客様と接することができていたのではないかと思います。

私は今回のプレインターンシップで接客業のような仕事ではお客様に温かい気持ちで接することが1番大切なのかなと思いました。また自分もお客様に覚えてもらったり、応援の言葉をいただいたり、笑いかけただけでもとてもうれしく温かい気持ちになる素敵な仕事だなと感じました。これからの大学生活はもっといろいろな考えを持っている人に出会い自分の考え方を広げたいと思っています。そして受け入れ先で出会った方々のようにコミュニケーション能力のある温かい社会人になりたいと思いました。本当にありがとうございました。

### 【3】田川市役所

人間社会学部公共社会学科1年小川健輔

今回のインターンシップでは、市役所での仕事内容の理解と経験、社会人として成長することを目標として臨んだ。大学生活では積極性が欠如していると感じていたため、インターンシップではそこが課題であると意識して取り組んだ。事前研修で学んだ名刺の受け渡し方のすべてを活かすことは出来なかったが一部を活かすことは出来た。

実際に働いてみて、公務員というのはとても堅苦しく融通の利かない職業だというイメージが覆った。また、職員の方々は若者の目線でも物事に取り組んでいることも分かった。仕事をするうえで苦労した点は、多くの人々が目にするのでチラシ等を作る際は表現や言葉遣いに気を付けなければならないことだ。「公務員である」ということ自体が厳しいのだと感じた。集中力を維持すること、市民の見本となること、どの年齢層でもわかりやすいように工夫することが大切でありとても難しいと感じた。せっかく若者の立場で市役所の仕事に携われたので、個性を出して新しいものを作ろうと努力した。

選挙管理委員会の皆さんはとても親切で、和やかな雰囲気であったため働きやすかった。とにかく集中力の維持はなんとかしなければならぬと思い、自分なりに工夫した。数日が経ち、気が付くと自然と集中出来ていたため成長を感じた。また、何か指示を受けるたびにメモを取れるようになり、質問も積極的に考えられるようになったので成長したと思う。

インターンシップに行ったことにより学んだことは、自分とは違うものの見方や意見は成長するうえでとても役立つこと、大きな組織になるほど計画を実行に移すには多くの過程があること、仕事内容、プレゼン能力・コミュニケーション能力・問題解決能力・企画立案能力が大切で自分にはそれらが足りていないこと等が挙げられる。自分が作ったものや案が認められることがとても嬉しいものだとわかった。働くこととはお金を稼ぐことだけではなく、誰かに喜んでもらうこと、そして仕事を通して自分の存在意義を確立させるものだと思った。次はこうしよう、あの時ああすればよかった、今日は上手く出来たと仕事に携わるだけでとても充実した生活を送ることが出来、人として大きく成長出来るのだと実感した。

将来はやはり田川市役所で働きたいと思う。そのためにもこれからサークルや講義を通じて多くの人と関わりを持ち積極的に考え、自分の意見を表現し、相手と意思疎通することで自分に足りない能力を養いたい。田川市役所の皆様や大学にはとても多くの貴重な体験をさせていただいたことに感謝したい。事後研修会を通して私が気づくことの出来なかったことや感じなかったことをたくさん知ることが出来て良い経験となった。研修会を行うことで自分はまだ吸収出来ることがあったのではないかと考えさせられて、未熟さを実感出来た。今後新たな体験をする際には余すことなく全てを自分のものにできるように意識したい。

#### 【4】 北九州市立自然史歴史博物館・中間市役所

人間社会学部 公共社会学科 1年 品川明生

私は将来社会人となったときに、様々な人へどのような対応を取るべきかを今のうちに学んでおきたいと思い、プレ・インターンシップに参加しようと思いました。また、アルバイトでは学べないようなことや、社会に出ると周囲からどのようなことが求められ、どのような能力が必要になっていくのかを学びたいと思いました。実際に社会に出ている方がどのような思いで、どうして今の場所で働きたいと思ったのかを知りたいと思い、そのことを必ず聞こうと決め、プレ・インターンシップに臨みました。

夏期プレ・インターンシップでは北九州市立自然史・歴史博物館、春期プレ・インターンシップでは中間市役所に参加させていただきました。実際に働いてみて、博物館ではお客様と関わる交流員以外にも、展示物の管理などに関わっている学芸員やボランティアの方など多くの方が働いていることを知りました。交流員の方はお客様に何か質問されたときに答えたり、案内したりしなければならないので、広い施設の各場所や展示物の知識を覚えなければならないので大変だと思いました。普段入れないようなバックヤードに入らせてもらい、そこにはまだ展示されていないものや貴重なものが倉庫いっぱい管理してあり驚きました。そこには発掘したものもありますが、寄付してもらったものもあり、様々な場所から資料を収集していることを知りました。中間市役所では聞いたことのないような課もあり、本当に多くの種類の課があり、たくさんの方が働いていることがわかりました。私が参加した所は課税課でしたが、税金の種類によって使われ方や税率が異なっていたので、やはり税金についてのたくさんの知識が無いとできないような仕事だと言うことがわかりました。市役所では多くの個人情報を取り扱っており、資料を扱う際には緊張したので、本当に責任感をきちんと持っていなければならないと思いました。初めて手続きをする方もいらっしゃったのでわかりやすく自分の言葉で説明するのが難しいと感じました。

博物館では初日だったこともあり、返事の声が小さく、もう少し大きい声を出すようご指導をいただいたので次の日からは大きい声で返事や挨拶をするよう心がけることができました。市役所ではほぼ毎日同じ業務をさせていただき、様々な年代の方が来るため、対応の仕方も難しかったのですが、どう対応すればよいか、どうすればスムーズに手続きを行えるのかが日ごとにわかっていくことを実感することができました。博物館でも市役所でも空き時間などに職員の方にどうしてそこで働くようになったのか、きっかけは何だったのかなどを聞くことができたので参考にしたいと思います。高校や大学を卒業して勤務している人がほとんどだと思っていましたが、人によっては興味から始めた方や転職してきた方など様々だったので意外でした。

プレ・インターンシップに参加しなかったら、博物館ではお客様の目に触れない所で多くの方が施設を運営しているということを知らなかつたらと思う。また、市役所は堅苦しくデスクワークばかり行っているというイメージでしたが、そのようなイメージを変えることができました。見えない所で多くの方が関わっているからこそ様々な仕事は成り立っていることがわかりました。今回の博物館と市役所での貴重な体験をこれからの進路を考える際に参考にしようと思います。やはり何でもわからないことや興味のあることには積極的に質問していくことは大切だと実感しました。人との関わり方や対応の仕方なども学校生活で役立てようと感じました。今後の学校生活や環境で将来どんな職に就きたいのかということを決めていきたいと思っています。

## 【5】公益財団法人宗像ユリックス

公共社会学科 1年 白石愛奈

私はこのインターンシップという機会で社員としての仕事の雰囲気や場所を知ること、また、自分の将来の夢を確実なものにするためのヒントを見つけるために、なにか行動に移す1つの手段として参加した。また事前研修で習ったクッション言葉や礼儀の作法などが実際に職場で行われているのを見て、社会でのビジネスマナーの重要性を知ることこのインターンシップでの学びの1つとして挑んだ。

実際に私がユリックスで働いて1番感じたことは、社員というもののすごさだ。ユリックスで働いている方々は今与えられている仕事が終わりと、他の所が終わってなかったら、自分で自分ができる仕事を見つけ行う。この光景を見て、周囲を把握する能力が必要だと感じた。また、イベントでは自分の役割を決めており、細かくスケジュール設定がされていた。社員の方たちは細かいスケジュールの中で確実に仕事をこなしていた。私は1つの時間がずれるとその後に大きな影響が出る環境下で仕事をする大変さを身に染みて感じた。そんな中私は、初めての仕事で動けないのは当たり前だとしても、これほどに動けないということは情けないのかと自覚することができた。その時初めて働くことに対して臨機応変の姿勢を忘れないということはとても大切だと考えさせられた。

また、インターンシップで働くことで良い面も多く感じる事ができた。それは社員の方々やお客様たちとの出会いである。社員の方たちやお客様とコミュニケーションをとることで普通に生活しては聞くことができない仕事の内情の話や、今の日本社会で働いていくにはなにが大切かなど様々な視点からの意見などを聞くことができ、貴重な体験となった。他にも、自分が成長できたと思うことがあった。それは自分から進んでお客様にコミュニケーションをとりに行った時である。初めは自分からお客様に話しかけられず社員の方に話の場をつくってもらっていた。しかし、自分の中で人に頼らず自分から動かなければならないといった心の変化があり、次の日から積極的にお客様とコミュニケーションをとることができていた。このことがこのインターンシップで1番自分の中で成長したことだと思う。

以上のことから、インターンシップで仕事というのはその1つ1つの責任が重く、そういった環境の中で働いていること、また、お金を稼ぐだけではなくお客様が笑顔で満足してもらうことこそが本当の働くということだと思えた。仕事はお客様に対してのサービスとそのサービスに対してのお客様の満足で成り立っているのだと改めて考えさせられた。その時、私は将来お客様と直接話ができ、自分が提供するサービスをお客様に承諾していただき、そして満足してもらう仕事に就きたいと改めて思った。これらを考えている時に観光業という言葉が頭に浮かんだ。私は観光をするのが好きでよく遠出をする。自分の好きなことでこのような接客ができる仕事をするのがとても魅力的に感じた。今まで私はしっかりとした理由がない中で市役所役員になりたいと思っていたが、将来の自分の働いている姿を考えると他に選択肢は多くあるのではないかと感じた。私はこの大学生活で自分がどのようなことをしてお客様など相手を満足させたいかということを考えながら大学生活を送っていきたいと思う。

このように多くの選択制を感じさせてくれたのはこのインターンシップがあったこと、インターンシップで私を受け入れてくれたユリックスの方々、そして手配をしてくれた先生方のおかげです。本当にありがとうございました。

## 【6】ギラヴァンツ北九州

人間社会学部公共社会学科1年 野口賢乃

大学生活が始まってまもなく一年が経とうとしている。この一年間の中で私が最も課題だと思っていることは、周囲から見られている自分と自分が思う自分のギャップである。その中の一つが初対面の人に対する態度である。私はよく周りの友達や家族から「賢乃って人見知りしなさそう。」「初対面の人にも明るく接していてすごい。」と言われる。確かに間違いではないのだが、内心『そんなことないのにな…』『初対面でも同世代の人だけ明るく振舞えるんだよ…』と思っている。せっかく自分に対していいイメージ、印象を持たれているのに中身が追い付いていないのはもったいないと感じる。今年の8月、夏季プレ・インターンシップ先でギラヴァンツ北九州に行った。その際、普段なら自然にできていたことが何故だかできなくて、逆にストレスになってしまった。それが初対面の人とうまく打ち解けあえない、どう話したらいいのか分からないということだった。したがって二回目のギラヴァンツ北九州での体験でこのギャップから抜け出したいと思い、参加した。

二回目となるギラヴァンツ北九州のインターンシップが始まった。『夏季にも行ったから』という少しの自信と、もう後悔したくないという思いからくる緊張感があつた。この五日間で、新たな自分を発見できた場面がいくつかあつた。まず、これまで苦手だと思っていたことを正直に相手に話し、アドバイスをいただくことで、ただ苦手だからと避けていた自分に気づき、苦手だと感じていたことをすぐできるようになったことだ。二つ目は、気持ちのいい挨拶ができるようになったことだ。今まで私は挨拶をする際、どこか恥ずかしがって小声になったり、お辞儀をするだけで声を出さなかったりすることが多かった。今回のインターンシップで勇気や自信が持てるようになったのか、明るい声かつ笑顔で挨拶ができた。自分でも驚いた。今回、いいことばかりではなく社会の厳しさを知る場面もあつた。それは駅前、ショッピングモールでのビラ配りや、マンションの郵便ポストにチラシを入れるポスティングと呼ばれる業務をした時だった。ビラ配りをしている人を街でよく見かけ、自分は何気なく受け取るのだが、いざ自分が配る側に立ったとき、この受け取ってもらえることがどれだけ嬉しくて大変なことなのか肌で感じた。ほとんどの人が知らんぷりをして素通りすることが多く、悲しい気持ちになった。ポスティングでは「見てもらいたい。」「開幕戦に来てもらいたい。」という思いで入れたいのに”ポスティングお断り”と書かれたマンションがとても多く、『なんでこんなことするのだろう…』とショックを受けた。自分の中では全く気にしないことでも、社会全体としてはそう簡単にいかないことを学んだ。

私は実家で暮らしているのだが、このインターンシップ中に家族からたくさんのサポートを受けた。家に帰ると、今日どんな仕事をしたのかを親身になって話を聞いてくれ、疲れている時は肩を揉んでくれたり、食事のメニューを変えてくれたりしてくれた。社会人となり、一人暮らしを始めたらこんなことをしてくれる人がいなくなり、自分のことは全て自分でしなくてはならないので、改めて家族の大切さを身に染みて感じた。

あっという間の五日間だったが、どの日も業務内容が濃く、充実していた。二回目のインターンシップで、それでも変わらず「来てくれてありがとう。」と、あたたかく受け入れてくださったギラヴァンツ北九州の社員さんに感謝の気持ちでいっぱいである。

【7】株式会社サンマーク ナッセ北九州支部・倉成社会保険労務士事務所

人間社会学部 公共社会学科 1年 濱福千尋

私は大学生の間に、自分が将来どのような仕事に就きたいのか、何をやりたいのかということをも明確にしたいと思っていました。しかし、そのために何をすればよいかわからず、何か今の自分を変えるきっかけがほしいと思い、今回インターンシップに参加してみようと思いました。インターンシップでは自分が今まで知らなかった職業のことや、興味があるものの具体的にどのような業務をしている仕事なのかということを知りたいと思っていました。また、1年生の段階で夏季、春季に5日間ずつという短期に2つの受け入れ先に行ける点でこのインターンシップは参加しやすかったです。事前研修では社会でのマナーや基本的な一般常識などを丁寧に教えていただいたことで、受け入れ先に行く前の心の準備ができました。

実際に働いてみて感じたことは、夏季では今まで学校などではミスや忘れ物をして困るのは自分だけでしたが、職場では一人の作業が滞ると周りの人や、もっと広くは社内だけでなく外の取引先の方やお客様にも影響が出るため、責任感を持って働くことが大切だということです。春季では相手先との信頼関係と自分には何が大切なことなのかじっくり考え実践することが大切だということを知りました。

受け入れ先では、夏季、春季を通して自分が描いている将来が思っていたよりも漠然としているということに気づかされました。受け入れ先で将来について聞かれた際、そう指摘していただきました。そのためもっと具体的に、自分が何をやりたいかとその理由を説明できるように、今後の大学生活でもっと自分を見極めたいと思います。一方インターンシップに参加して新しく知った自分の一面として、ワードやエクセルなどのパソコンの基本操作などの作業をほめていただきました。夏に MOS 検定を受けてはいましたが、それまでパソコン操作に自信があったわけではなかったのにインターンシップ先でほめていただいたことで自信を持つことができました。インターンシップ中、実際の業務で使用する書類を任せていただいたときは緊張しましたが、任せていただいた分、精一杯努めました。中には失敗できない書類などもあり、社会人としての責任の重さをわずかながら感じることができました。同じ職場内でも任される役目はそれぞれあり、自分には何がしたいか何ができるかということを見極めることも大切だと感じました。今回のインターンシップは短い期間でしたが、社会は自分が思っていた以上に大きく、多くの人がかかわって成り立っているということを知るきっかけになりました。また組織に属すれば自分だけでなく、周りの人や会社全体の責任も抱えなければならない場合も出てきます。そういった全体を見渡す力も必要になると感じました。

今回、1年生の間にインターンシップを体験できたことは将来の就職活動の予習にもなり、また大学生活においての意識の変化にもなりました。このような機会をくださった先生方、また快く歓迎してくださった受け入れ先の方々に心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

## 【8】飯塚商工会議所

人間社会学部 公共社会学科 1年 吉浦 輝

私は幼い頃から、自らの意思によって行動をすることが苦手でした。どうしても周囲からの目線が一番に気になってしまいます。しかし、私はもうすでに大学生です。大学で4年間を過ごした後は、どう足掻こうとも社会人になります。私は、自分を変えようとプレ・インターンシップへ参加しました。プレ・インターンシップでは、コミュニケーション力、協働力、自主性や積極性など、私が劣っている力の全てを鍛えることができます。プレ・インターンシップでの受入先事業所では、どんなに小さな出来事でも私にプラスになるように吸収してやろうといった思いで臨みました。

前回の受入先が飯塚市役所だった私は、次は公務員ではない職種への受け入れを希望しました。そして今回受け入れて頂くことになったのが、飯塚商工会議所でした。私は、大学生になる以前から「〇〇商工会議所」といった名前だけは認知していましたが、実際にどのような働きをしている所なのかは知りませんでした。事前訪問の際に訪ねた時の雰囲気は大きく公務員と変わらない印象でした。しかし実際に働き出し、違いを感じる事ができました。特に私が印象に残っているのは、初日のオリエンテーション時に総務課の方が言っていた、「商工業者の発展を第一に考えている」という言葉です。言葉の通り、商工会議所に来たお客さんに対する職員の方々の対応は、お客さん側の目線だなと感じました。また、職員の方々の人数が多くないため、個人の役割によった働き方があると感じました。さらに、学生生活の中では体験することのない、「課長」「主任」など、役職の存在を感じる事ができました。

私は前回の反省として、主に積極性に欠けていたと感じていました。そのため、今回は与えられた仕事を終わらせるのはもちろんのこと、終わったらすぐに他に手伝えることがないかを担当の方に確認をしに行くように意識しました。もし、確認をしに行き特に無いと言われた時には、自分の机の周りにある資料から学びに繋がることがないか、探していました。この姿勢を5日間貫き通せたということは、以前の私より少しは進歩していると感じました。また、商工会議所の方々の行動を見ていると、社会人は当たり前のことを当たり前にこなしていると感じ、そこが学生から社会人になるにあたって身につけておかなければならない姿勢だと思いました。例えば職員の方に、セミナーの受講者に配る資料を作っておいてほしいと頼まれたとすると、その職員の方が求めていることを理解した上で、その資料を配布するセミナーの受講者の立場になり作成するといったような姿勢です。商工会議所の皆さんは平然と作業を行なっていましたが、その姿勢を身につけていない私には、その作業の裏側に隠れている姿勢が伝わって来ました。

私は、プレ・インターンシップに参加して良かったと思います。確かに、参加することで緊張したり疲労が溜まったりすることはあります。しかし、緊張したり疲れたりすること自体が良い機会だったと今では思えます。私たちは5日間ですが、社会人の方はこの日々を毎日繰り返しています。私は、この感覚を本格的なインターンシップ前に知っていると知っていないでは大きく変わると思います。最後になりましたが、私は飯塚商工会議所でプレ・インターンシップができたことを嬉しく思います。また、飯塚商工会議所と私を取り持っていただいた大学にも感謝しています。ありがとうございました。

## 【9】田川市立図書館

公共社会学科 2年 伊藤菜月

大学に入学して、最初に躰いたのは「友達を作る」ことでした。2年生にもなると親しい友人が複数人できていましたが、入学当初は初対面の人と話すことが苦手で、長いこと特別親しい友人ができないまま学生生活を送っていました。プレ・インターンシップ自体は友人たちが受けると言っていたから参加したようなものでしたが、インターンシップを受けるにあたって一番の課題となり、強化すべきであると感じた部分は「コミュニケーション能力」でした。

事前研修にて礼儀作法などを重点的に頭に入れて、実際今回のプレ・インターンシップで5日間働いてみて感じたのは、やはり年上の初対面の方とのコミュニケーションの難しさでした。高校の時から司書の仕事にあこがれていたため、業務自体は非常に興味深く楽しかったのですが、受け入れ先の職員さんとの会話は何を話したらいいのか分からなくなってしまい、必要最低限の会話で済ませてしまったりする場面もありました。

しかし、3日、4日と日数を重ねていくうちに、職員さんの方からも声をかけていただくことが増えました。直接業務に関係ない雑談をすることで、職員さんと話しやすくなりましたし、緊張が解れたように感じました。緊張が解れると業務に関する意見や感想も言えるようになり、仕事に対して憂鬱に感じるものが減りました。しかしそれは限られた人相手でしかなく、人によっては業務に直接関係のない話をすると微妙な反応を返されましたし、「言われる前に行動して」「余計なことはしないで」という言葉に板挟みになってしまうこともありました。当たり前なことですが、同じ職場にも様々な考えを持つ人が一緒に働いているので、人によっては好意的に取られることが、他の人には良く思われたいということもあるのだな、と痛感しました。やはり終わってみた今でもコミュニケーションは難しく感じます。最終日に担当してくださった方は、総合評価の際に「コミュニケーション能力が高い」と評価し今後の武器になると褒めていただきました。そのことはとても嬉しかったのですが、きっと他の方に評価していただいていたら、そうは言われなかったと思います。それでも、自分の中で課題としていたコミュニケーション能力を評価されたことはこのプレ・インターンシップでの大きな収穫であると感じます。

前期の5日間と後期の5日間、累計10日間の体験を経て、憧れていた仕事や興味があった仕事の業務内容が、一部とはいえ知ることができて、今後の職業選択の参考になりました。働くことは決していつも楽しいものではありませんが、職場の人との関係性が良ければ、同じ業務でもやりがい全然違います。仕事を早く覚えて技術を身につけることも大切ですが、職場の人との人間関係を良好なものにすることが、将来働く時に一番気をつけたいと思ったことです。これから先は、物怖じせずいろいろな人と交流することに挑戦してみようと思います。

## 【10】福岡県立図書館・福岡県立美術館

人間社会学部公共社会学科2年 井戸本 萌

今回、わたしは社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身につけたいと考え、プレ・インターンシップを履修しました。大学生活の中で専門的知識は蓄積していく一方で、実際に体験し学習するという機会が少ないため、就職する上で必要な対応力や対課題基礎力といった能力を実際に体験しながら学ぶこと、将来の視野を広げることを目的に参加しました。

わたしは、福岡県立図書館と福岡県立美術館へそれぞれ5日間のプレ・インターンシップを行いました。実際にその場へ行くと、自分が想像していた業務内容よりはるかに多い種類の業務を各部署が行っており、仕事のふり幅の広さを実感しました。例えば、図書館ではカウンター業務だけでなく、配架、レファレンス、相互貸借業務などの作業も行っており、美術館では、休館日に展示物の搬入作業が行われており、開館日だけでなく、休館日の美術館の業務内容についても知りました。

体験期間中、とくに受け入れ先で職員さんや利用者さんとのコミュニケーションに苦労しました。そのため、適切な敬語を用いながら相手の趣旨を捉え、相手に好印象を持たれるように自分の考えを丁寧に伝えるよう心掛けました。初日では緊張してしまい、うまく会話を交わせませんでした。回数を重ねるたびに積極的にコミュニケーションを取ることができました。そのコミュニケーションの中で、図書館や美術館の仕事内容だけでなく、職員さんの学生時代の話や公務員についてなど様々なことを聞かせていただき、自分自身の将来設計に役立つ知識を学ぶことができました。

実際に働いていく中で、効率的かつ丁寧に業務をこなす大切さと難しさを学びました。図書館の職員、美術館の職員から共通していわれたことの1つに、疑問点があればすぐ聞き、何かあればすぐ報告することというものがありませんでした。報告・連絡・相談を徹底することで失敗を減らし、効率的かつ丁寧な業務を行う環境づくりにつながると学びました。

わたしは、プレ・インターンシップを履修する前までは、社会人と接することが少なかったため、積極的に年上の方と話す機会が少なかったのですが、プレ・インターンシップを通して組織への積極的な参加やコミュニケーション能力を上げることができました。また、課題の発見、課題の設定、計画の実行という一連の流れをプレ・インターンシップ期間中繰り返し、対課題基礎力について学習することができました。

計10日間のプレ・インターンシップを通して、積極性や人との関わりが働くうえで大切になるのだと学んだため、これからの学校生活では、自分の課題点を見つけ、計画をすぐ実行に移す行動力を大切にし、ボランティア活動やアルバイト先など様々な場でのコミュニケーションを積極的に行いたいと思います。

## 【11】田川市役所総合政策課政策推進係

人間社会学部公共社会学科2年 上枝明日香

私がインターンシップを履修した理由は、社会人として働くことはどういうことなのかを学びたかったからと、将来行政に関わる仕事に就きたいと考えていたからです。市役所職員を希望しているので、田川市役所を選びました。体験前の市役所職員の仕事は窓口対応やデスクワーク等の事務作業がメインというイメージで、堅い印象を持っていました。

実際に10日間仕事を体験させていただくなかで、市役所職員の仕事への印象が変化しました。私の受入先であった総合政策課は、市民アンケートの確認作業や入力作業の事務作業、地方創生などに関することなどを担当していました。デスクワークが中心ではありますが、体力も必要な仕事や機械的に作業するだけでなく柔軟性を求められる仕事も多いことが分かりました。また、様々な仕事に臨機応変に対応する力が必要だと感じました。私はただ与えられた仕事をこなすのが精一杯で、最初から積極的に動くことができませんでした。また、体験の中で、仕事は時間との勝負であるとも感じました。複数の仕事を同時に進めていかなければならないときに、どのように時間を使っていくのか、段取っていくかを考える力が求められていると思いました。反省点として、体験期間中に1度遅刻をしたことが挙げられます。社会人として働くということは、信頼と責任が必ずついてくると考えています。信頼を失いかねない行動であったので反省し、次に生かしていきたいです。

私の短所は積極性のなさであると考えます。今回のインターンシップでは積極性を持って行動するというのが目標でした。ところが、自分のことで精一杯で前半はあまり積極的に仕事を求めたり、職員の方と接したりすることができませんでした。しかし、友人からの励ましや職員の方が優しく話しかけてくださり見守ってくださったおかげで、後半からではありますが積極的に行動を起こせたと感じます。

今回、インターンシップを履修しなければ、自分から行動を起こすのが苦手なままであったのではないかと感じます。これから発表や就職活動などで自分から行動しなければならない機会が多くあります。今回の経験を生かしていきたいです。また、社会人として働く大変さを学べたと思います。アルバイトとは責任の重さがまた違うと改めて感じました。体験して、自分がいかに学生気分であったのかということを実感させられました。学生であるという立場に甘んじることなくこれから行動していきたいです。田川市役所でのインターンシップで、市役所職員として働きたいという思いがいっそう強くなりました。将来に向けて努力していきます。田川市役所総合政策課の皆様には大変お世話になりました。10日間の経験の中で得られたものはとても大きく、自身の成長に繋げることができました。本当にありがとうございました。

## 【12】田川市立図書館

人間社会学部 公共社会学科2年 内田夏姫

私は夏季のプレ・インターンシップでは一般企業である株式会社クリエイティブジャパンにお世話になった。今回の春季で田川市立図書館を希望した理由は2つある。1つ目は夏季の学びを次に活かすための課題を一般企業ではなく別の職場でも培うことができるのか挑戦してみようと思ったからである。2つ目は最初から一般企業に就職するだろうと考えを持っていたがそうすることが正しいのか判断するためであった。

田川市立図書館の5日間もまた充実した日々であった。田川市立図書館は土日も運営しており、雨が降り悪天候な中でも幼児から年配の方まで様々な利用者が訪れていた。今まで自分が利用する側だった場所で自分が働くということで不安も生まれたが、何より新しいことを経験できる好奇心の方が勝っていた。図書館での業務は細かい作業を含めると多くあったが、利用者の皆様のことを考えて働くことは嬉しさでいっぱいであった。破れた本の修復作業や新刊の装備、配架や書架、電話連絡、資料検索などどれも初めてのことで不器用ながらも職員の方に教えていただき、失敗を恐れずに意欲的に挑戦した。

夏季のプレ・インターンシップではすでに自分から仕事を探すことができおり、そのことを職員の方に褒められていたので次なる課題として、自分から考えて動くことに挑戦した。しかし良かれと思い準備したものが必要なかったなど、なかなか思うようにいかないことがあった。職員の方がすでに効率を考えて準備をしていたことを知り、まだ先のことを考えた状況を把握する力が足りていないのだと反省した。それからは先に「こうした方が良いと思うのですが、どうですか」と尋ねるようになった。また「これも必要となるので良ければ教えていただけないでしょうか」と意欲的に働くことを意識した。今後は自分で動いたことが効率よく良い結果を出せるように習慣づけるつもりだ。

職員の方から、電話連絡も臆することなくこなし、カウンターが混み合った時の利用者への対応や優先順位を考えて動くこと、笑顔など多くのことを褒めていただいたことで、自分では満足できておらず消えかけていた自信を取り戻すことができた。なにより土曜日にボランティアである「あしながの会」の方々と絵本の読み聞かせを実施した時に、自分が選んだ本に興味津々で耳と目を傾けて楽しそうに過ごしてくれたこと、ボランティアの方と世間話をしたときに「すごく様になっている、とても上手だった」と時間外でもお褒めいただき、人と接することが実は好きだったのだとこのとき初めて実感することができた。

最後に今回の田川市立図書館では世間話やお互いの話をして楽しく過ごさせていただき、食べ物を用意してくださった好意的な方もいたので助かった。今後は地元の利用者という立場に戻り田川市立図書館に足を運ぶことになるが、これからはこれまで以上に本に触れていきたいと改めて感じた。そして将来は何らかの形で人と接する仕事に就くと決心した。

### 【13】宗像ユリックス・添田町役場

人間社会学部公共社会学科 2年江熊捺華

私は今回プレ・インターンシップに行った目的として、将来の就職先として民間企業と公務員とで悩んでいること、また、2年後に始まる就活に向けて自分が何に向いていて、何に不向きであるのか実際に職場を体験した上で把握しておきたかったという思いがあった。さらに、このプレ・インターンシップを体験する前に自分は初対面の人とコミュニケーションをとることが苦手であると言うこと、自分から積極的に仕事をもらいに行くことが出来ないことなどが課題であると感じていた。

実際に今回添田町役場でインターンシップの体験を5日間行った。5日間は総務課、まちづくり課、社会教育課、税務課、学校教育課と5つの部署で体験を行った。実際の仕事内容としては総務課では、事務仕事や添田町を案内してもらい魅力を教えていただいた。まちづくり課では、添田町の観光名所である英彦山に山道・登山道の安全確認、文化財の説明、山道のトイレの確認などを名目に登山を行った。社会教育課では、児童館で行われるイベントの補助、小学生との交流を行った。税務課では、確定申告や税の勉強を行った。学校教育課では、1日添田小学校の2年生に入らせてもらい交流をした。また午後に行われた学習支援にも参加した。

私は、プレ・インターンシップで体験する前は公務員とは事務的な仕事をこなすイメージが強かった。しかし、実際に体験してみると部署ごとで仕事内容が違うこと、また住民が知らないところでの隠れた仕事があることなどが分かった。私は今回体力を使う仕事を多く体験させていただいた。だが、普段運動をあまり行わない私にとっては大変であった。どの部署に配属されるか分からないため体力をつけ健康的な生活をおくることが大切であるように思われた。また、社会人になると朝が早いので自分の生活リズムも規則正しくするべきであると感じた。

今回のインターンシップでは人とふれあう事が多かった。自分は人と話す事が苦手だと思っていたが、夏季のインターンシップで少し克服出来ていた事もあり、今回は子どもや住民、職員の方に積極的に話かけていく事ができた。また、これは普段の生活にも生かされており、初対面の人と積極的に関わって行くことが出来るようになった。さらには、実際に町役場で働く職員の方々に、公務員の良いところ、いつ頃から勉強を始めたらいいいのか等様々なアドバイスをいただいた。

私は今回添田町役場にプレ・インターンシップに伺い、公務員といっても様々な仕事があることやどのような事でやりがいを感じるのか知ることができた。また、自分が教育免許取得中であることから実際に教育の現場を体験してもらい教師のやりがいというものを感じる事ができ、将来の職業について様々な選択肢を持つことができた。特に今回は体験先の職員の方々が温かく迎えてくれ、そして丁寧に仕事内容を教えてくださり自分も将来に向けて様々な努力をしようモチベーションアップへと繋がった。5日間自分の将来に向き合う事ができ充実したプレ・インターンシップとなった。

#### 【14】福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」

公共社会学科 2年 大木彩色

福岡県立大学に入学して今まで過ごしてきたなかで、私は社会におけるマナーを始めとして、「社会に出るにおいて何が必要か」ということをよく理解できていなかったように感じる。その点において、今後インターンシップや就活を始める前にきちんとした知識を得て、実際にできるようになっておかなければならないと思った。したがって、私はまず自分が興味を持っている職業から「職業」に対する理解を深めたいと思ってこのプレ・インターンシップに参加した。事前研修では、名刺を渡す際の注意点や電話対応の際の留意点など、社会に出た際に必要になるであろうマナーを学ぶことができた。

今回、私は福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」様に研修に向かった。私は図書館というと、本の貸し出し・返却の管理や来館者が借りたい本を探すのを手伝うといった仕事内容を思い浮かべていた。実際にはそれらのことに加えて新着本の受入や蔵書の点検といった直接本に関わることから、来館した保育園児たちと一緒に絵本を読んだり、館内展示を作成したりなど、来館者が過ごしやすい環境を整える仕事も行っていた。図書館は様々な世代の人々が利用する場所なので、誰もが満足して過ごせる場を作るというのはなかなか難しいことだと感じた。このように本はもちろん人にも直接関わる仕事だったので、私は来館者の方が静かに安心して過ごせる環境を整えることに苦勞した。例えば返却された本を元の場所に戻す配架という仕事があったのだが、受入先が二階建ての大きな図書館で蔵書も多く、自分がはっきりとどこにどの分類の本が置かれているかを把握することができていなかったため、目的の場所にたどり着くのに時間がかかった。更にそのときに来館者の方の読書スペースなどの近くを通るので、その人々の邪魔にならないように素早く静かに配架を行なうことに努めた。

今回の受入先には同じ学科の学生と共に向かったのだが、担当者の方は自分たちに仕事を与える際どちらがこの仕事をする、と決めるのではなく、二つ仕事を提示して、どちらがどちらの仕事をしたいか、と問いかけて自分たちに選択肢を与えてくださった。そのことにより自分たちで仕事を選び、私はどのような作業をするのが得意であるかということに気づくことができた。また以前まで初対面の相手に笑顔で挨拶することを意識していなければ難しいと感じていたのだが、今回受入先の担当者の方々や配架のときにすれ違う来館者の方々に笑顔で挨拶できたのではないと思う。

私は読書が好きでおぼろげながら将来は本に関わる仕事がしたいと考えている。その点において今回の受入先はその職業について学べる良い機会となった。また上記の仕事内容に保育園児たちと絵本を読んだと書いたが、私はその年代の子どもたちと過ごす機会があまりなかったので、最初は不安だったが、実際にふれあってみると自分の想像以上にすんなりと対応できたことに驚いた。今までは小さい子どもと一緒に何かをすることが苦手だと感じていたためである。このことから私は自分が思っているよりも案外子どもたちとふれあうことが苦ではないことに気づいた。このことはプレ・インターンシップに行かなければ気づかなかったかもしれないことだと思う。今回私は積極的に動くことや効率的に仕事を行なうことがあまりできなかつたので、今後の学生生活においてそのことを克服できるように努力したいと考える。最後に、今回なかなか仕事を素早くできなかつたり積極的にできなかつた自分を丁寧に指導して下さったり、居心地の良い環境を整えて下さったりした受入先の方々に感謝の意を伝えたい。

## 【15】株式会社クリエイティブジャパン

人間社会学部公共社会学科 2年 梶岡瑞生

私は大学生活やこれからの生活において、積極性や主体性、自分の意見を持ち、それを伝えることが課題であると感じていました。そこで、これらを克服し、社会に出たときに困らないように成長するためにプレインターンシップに参加しました。事前研修では、社会人として必要なマナーを学びました。具体的には、挨拶、敬語の使い方、電話対応の仕方などです。事前研修でこれらを学んだことで、実際に企業でインターンシップに行った際に役立ちました。

5日間インターンシップで実際に働いてみて、仕事をするにあたり人とのコミュニケーションはやはり大切であり、企業内でのコミュニケーションはもちろん、いつもお世話になっている取引先、またこれから関わるかもしれない人へのコミュニケーションの取り方も大切であると改めて感じました。私が今回頑張ったことはよいコミュニケーションをとるために、身だしなみを整えること、挨拶、はきはきとした受け答えをすること、そして仕事をてきぱきとこなすことです。しかし、初めて行うパソコン作業では不慣れなことから戸惑ってしまうことなどもありました。

そんなときに受け入れ先の方にわからないことを伝え、どうしたらよいのかを相談すると、みなさんがわざわざ仕事の手を止め、優しく丁寧に教えてくださいました。また、私が作業をしている際、困ったことやわからないことはないかを気にかけてくださり、本当に働きやすい環境でした。私が任された仕事をしている際、「もしかしたらこのようにしたらよいのではないかな」と思うことがあり、少しおこがましいかと思ったのですが自分の意見を言ってみたところ、「その方が良さそうだね！ありがとうございます」といっていただきました。この経験を通し、一皮むけたなど実感しました。

プレインターンシップに参加しなければ、このように自分の意見を持ち、それを伝えることはできなかつたと思います。また、積極的に自分から挨拶や仕事を進んですることもなかつたように思います。このプレインターンシップに参加したからこそ、大学生活において課題だと感じていた積極性や主体性、自分の意見を持ち、それを伝えるということができるようになりました。最終日に、社員のみなさんの前で挨拶をした際、「あなたとはとても働きやすかったよ。身だしなみも言葉づかいも敬語もきちんとしているし、周りの状況をよく見て、自分が何をしたら周りの人が働きやすいかをよく考えることができているし、よく気が利くね。」とお褒めの言葉をいただくことができたことが、何よりも嬉しく、この5日間頑張ってきて良かったと心から感じました。これからの学生生活では、褒めていただいたことを確実にこなせるように頑張っていきたいと思います。

## 【16】田川市立図書館・株式会社トーン

人間社会学部公共社会学科 2年 齋藤采希

私は働くということに関してぼんやりとしたイメージは持っていたものの、明確に捉えることができずにいました。そのため、働くことへの理解を深め、就職活動に向けて必要なスキル、マナー、姿勢などを少しでも身につけたいと思い、今回のプレ・インターンシップへの参加を決めました。

夏季の田川市立図書館では、様々な業務を体験させていただきました。仕事をするうちに、どの業務も利用者が不足無く図書館を使っていただくために大切なものであるという責任を感じました。また、朝礼では図書館で起こったトラブルや利用者からの要望などの情報共有が行われており、日々改善を繰り返して運営されているのだと感じました。より良い図書館づくりのためには、単に仕事をこなすだけでなく利用者の目線に立って考えることが要求されるのだと思いました。

春季の株式会社トーンは、出版業について理解を深めることができました。業務は営業や雑誌のレイアウト、デザイン、撮影などこちらも多岐に渡り、たくさんの経験をする事ができたのですが、一番印象的なのは撮影に同行させていただいたことです。撮影では小装具、商品の配置など細かな調整が必要になり、今何が必要とされているのかを考えながら動く必要があったためとても難しかったです。プロの方ばかりの現場で自分が邪魔になっているように感じることもあり、周りへの気配りや何が必要とされているか把握する力が自分には足りていないと感じましたが、今後の課題を見つけることのできたいい経験となりました。

また、プレ・インターンシップの初めはなかなか自分から仕事を見つけることや、質問をすることができなかつたのですが、だんだんと積極的に職員の方に質問し何をすべきかを考えて動くことができるようになり、職員の方に褒めていただくことも増えました。課題だけでなく自身の成長も感じられ、嬉しかったです。

プレ・インターンシップでは、企業の方々とお話しする機会もあり、仕事への姿勢やどのような思いで仕事をしていらっしゃるのか学ぶことができました。やはり働くうえで誰かに喜んでもらうこと、人のために働くことは一番のやりがいであると感じていらっしゃる方が多いと感じました。私も将来仕事に就く際は、そのようなやりがいを感じられる仕事に就きたいと思いました。今回のプレ・インターンシップを通して、自分の成長や今後の課題、働く意義など多くのものを見つけられたと思います。今後、この経験を生かして有意義な学生生活を送りたいと思いました。受け入れていただいた企業様、また1年間サポートをしてくださった就業力支援センターの方々に感謝申し上げます。

## 【17】直方谷尾美術館

公共社会学科 2年 坂本佳穂

私は大学生活をおくる中で、自分なりの意見を持って積極的に行動し、場面に応じた的確な状況判断が出来ていないことが課題であると実感していました。そのため、プレ・インターンシップでは担当者の方の指示に従うことはもちろんですが、自分の考えをしっかりと持ちどのような場面においても的確な状況判断が出来るようになることを目的としました。

受入先である直方谷尾美術館では、工作教室などのイベントの準備・補助など多くの業務をさせていただきました。業務をおこなう中で、イベントがスムーズにおこなわれるように職員の方々がしっかりと連携し、冷静に的確な状況判断をしていることに気がつきました。私自身も工作教室において、常に広い視野を持つことを心がけ、特に作業をする子供達の安全に気を配るなど美術館の子どもスタッフとも協力して工作の補助を行いました。また実際に働いてみて、思っていた以上に地域の方々との交流が多く、「人と人とのつながり」が強い場であると実感しました。多くの地域の方々とは交流するのは初めての経験だったため、なかなか積極的なコミュニケーションが出来ず状況判断に迷うことも多かったのですが、働く上で地域（市民）との関わりはとても重要であり、関わりがあってこそ多くのイベントを行うことが出来るのだと思いました。

直方谷尾美術館の職員の方々は私に美術館での多くの業務を教えてください、また作品の扱い方なども丁寧に指導してくださいました。そのため教えていただいたことを丁寧に実行しながらも、前日の反省点を思い出しながら常に効率よく、より早く作業を行うことを心がけることができました。ただ与えられた業務を忠実にこなすだけではなく、自ら色々なことを考えながら業務に取り組むことが出来たと思います。

プレ・インターンシップでは積極性やコミュニケーション力など、思っていた以上に自分自身には多くの課題があると気づかされました。しかし、プレ・インターンシップに参加していなければそれらの課題には気づくことが出来ませんでした。働く上で人と人との関わりはなくてはならないものであり、「つながり」こそが自らを成長させていくのだと思いました。多くの課題に気付かせてください、今まで経験したことのない業務をたくさんさせてくださった直方谷尾美術館の職員の方々にとても感謝しています。これからの学生生活では、今まで以上に多くの人と関わり、自らの視野を広げていきたいです。

## 【18】一般財団法人源じいの森・川崎町健康づくり課

公共社会学科 2回生 白石淳

今年度、私はプレ・インターンシップを受けるにあたって「普段できない経験をする」ということを目的としていた。現在、日ごろの大学生活やアルバイト、その他外部での活動以外での新しい経験を求めているのだ。そのため夏季の源じいの森では宿泊施設、春季の川崎町健康づくり課では行政と、それぞれ普段の生活では経験することが難しい分野を体験先として選択した。また、私自身将来は公務員を視野に入れているということもあり行政の分野には強い関心を持っていた。

源じいの森では主に清掃業に従事した。ここでは客室を清掃する上での業者の方々の細かな気配りを実感した。普段の生活では気にしない部分でもそこでは「客に提供する」という責任がある以上、重要な点となる。このような「商品としてサービスを提供する」ということを改めて実感した。川崎町の健康づくり課では主に、住民を対象とした健康づくりに関する事業に参加、見学および受付補助、会場設営等をさせていただいた。健康づくり課の業務は保健の分野が主であり、社会学部の私は全くの門外漢であった上に、極めて個人的な情報を扱うことも多いため、他の体験先に比べても貢献できたことは極めて少なかったであろう。実際、県立大学から実習などで来る学生も大半が看護科、福祉科であったという。しかしそのような状況でも快く受け入れて下さった。非常に申し訳ない気持ちではあったができる限りのことをするよう努めた。

源じいの森、健康づくり科ではともに職員の方から大変気にかけていただいた。源じいの森での業務は覚えることは多かったが5日間という期間と職員の方の指導のおかげで随分と手際よくできるようになったと感じる。健康づくり科では運動教室といった事業の利用者の方々とのコミュニケーションの機会に恵まれた。積極的にかわりにいったこともあり、健康づくりに関する事業の感想や普段の生活のこと、川崎町に関する事など多くのことを聞かせていただいた。また各事業の成り立ちや目的、川崎町そのものについての解説をしていただき、事業や町についての理解が深まった。

今回のプレ・インターンシップでは多くのことを学んだ。源じいの森での業務は客室清掃という性質上、客と接する機会は少なく、淡々としたものではあったが、職員の方からは「客が多く忙しい時期だったから助かった」と言っていただき、どの仕事でも誰かから感謝されることは仕事のモチベーションにつながるということも学んだ。また川崎町健康づくり科では、「男の料理教室」や「運動教室」に参加される方々と接することで、健康に関心を持つこと、新しいことを始めることといった活力の大切さを実感した。また、それを行う場を実際に経験することで、提供する側の行政の事業の重要性に関する理解が深まったように感じる。今回のプレ・インターンシップで得たことを今後に活かしていくとともに、以後、新たな経験によって学びを深めていきたい。

## 【19】株式会社 PANET

人間社会学部 公共社会学科 2年 田村汐里

私は大学生活で、他者とのコミュニケーション能力や積極性が自分に欠けているところであり課題であると感じていました。こうした自分が苦手意識を持っているところを少しでも克服したいと思い、また、今後のインターンシップに向けて、職場体験とはどういうものなのか理解したい気持ちがあったため、今回のプレ・インターンシップに参加しました。事前研修では、インターンシップでの基本的なマナーなど、今回のプレ・インターンシップだけではなく、今後のインターンシップでも役立つようなことを教わることができました。

実際に働いてみて初めて気づいたことは、従業員の方々は限られた時間の中で効率的に作業を進められるように、次にしないとイケないことを考えながら働いていたということです。また、従業員同士のコミュニケーション、協調性が大切であるということが理解できました。体験先で苦労したことは、従業員の方と積極的にコミュニケーションをとることです。特に職場が忙しいときは、今話しかけると迷惑になるのではないかと考えてしまい、なかなかコミュニケーションをとるタイミングをつかむことができませんでした。また作業面では、初めて体験することが多く、作業に慣れていないため、作業をするのに時間をかけてしまい、なかなか効率よく作業を進めることができませんでした。特に頑張ったことはお客様が来店された時の声出しと接客時の笑顔です。初日はまだ声が小さく、もっと大きな声を出すように指導を受けたので、それから声出しをもっと大きな声でするように頑張りました。その結果以前よりも声出しの声が大きくなっていると声出しや笑顔を褒めていただけました。しかし、受け入れ先の方からのプレ・インターンシップ事後評価表では声出しやコミュニケーション面などが低評価だったので、自分では頑張ったつもりでしたが、まだ頑張り方が足りなかったということに気づき、働くことや社会人としての厳しさを感じました。

今回のプレ・インターンシップでは、たくさんの方からサポートや支援を受けました。プレ・インターンシップを体験するにあたっての事前研修では、インターンシップでのマナーなどを学ぶことができ、インターンシップについてよく理解していなくて不安に思っていた私にとって、インターンシップでの基本的なことを学ぶのにとっても良い機会になりました。また受け入れ先の方々は、お忙しいにもかかわらず皆さん丁寧に様々なことを教えてくださり、とても貴重な体験をすることができました。自分なりに努力したことは、受け入れ先の方々と積極的にコミュニケーションをとることでした。プレ・インターンシップを終えて、まだまだ自分には積極性やコミュニケーション能力が欠けていると実感しましたが、以前に比べると少しはそのような力がついたのではないかと思います。

プレ・インターンシップに行かなかったら、実際の職場の雰囲気がどういうものなのかということや、自分が今後身につけていかなければならない力などに気づくことができなかつたと思います。今回の受け入れ先で嬉しかったことは、自分が製作にかかわった商品をお客様が手に取った時です。この時に特に、この仕事のやりがいを感じました。これからの学生生活では、私の課題である積極性やコミュニケーション能力を身につけていきたいと思っています。将来の夢はまだ漠然としていますが、今回の体験を今後の進路選択にも生かしていきたいと考えています。改めていろいろとサポートして下さった大学やお忙しい中受け入れて下さった受け入れ先の方々に感謝したいと思います。

## 【20】川崎町立図書館

公共社会学科 2年 中西吹来

私がプレ・インターンシップに参加しようと思った理由は「仕事」というものがどんなものなのかよくわかっていないと感じていたからである。その時の私の仕事に対するイメージは上の人に言われたことをこなしていくような受動的なものであった。何をすることが仕事なのかもわからない上、どのようにするかも知らなかった。しかし大学二年になり、地元の同年代の友達にはもう働いている人もいる。就職活動がすぐそこまで迫っていることも理解しはじめ、そろそろ仕事とはどういったものなのかを知るべきだと思い、プレ・インターンシップを受講してみた。よくわからないまま事前研修に行き、敬語や服装やマナーなどについて学びこれらが全てできていないと社会に出ても通用しないのかと衝撃を受けた。

実際に川崎町立図書館にプレ・インターンシップとして行ってみると仕事のイメージは少し違った。まず、仕事はただ言われたことをやるだけの受動的なものではなかった。もちろん上の人に言われたりあらかじめやることは決まっていたりもするが、どのようにその仕事を処理するかは自分で考えなければいけないのだ。例えば工作教室で児童と一緒に工作をするにしても、どのようにしたら児童は心を開いてくれるか、楽しいと感じてくれるだろうかなど考える場面がたくさんあった。ただ子供に接するとしても普段とは違ってとても気を遣った。本のポップを描くにしても、どのように描いたら読みたいと思ってもらえるか、子供が相手だったら絵を入れても良いし大人が相手だったら興味を引くような文章を書かなければいけない、といろいろなことを考えながら描いていた。

私が特に勉強になったと思ったことは全ての物事は人が考えて行っていることなんだということである。具体的に言うと、私はそれまでポスターやお知らせなどの掲示物は誰かが作ったということが分かっていなかった。それらが貼ってあるということはそのプリントや装飾を作った人がいることであるということも当たり前なことなのに私は全く認識していなかったのである。同じように館内整理日に絵本の新書コーナーについて職員の方たちがこれまでの配置ではわかりにくい、どのように配置したら子供が本を手に取りやすいかということを考えていて、この図書館内の配置は漠然と決まっているのではなく全て来館者が利用しやすいように考えて配置されているんだということも初めて認識した。また、川崎町立図書館の開館20周年を記念したパネルの装飾も手伝ったが、装飾一つ一つにしても頑張って作った人がいるんだと思った。仕事の多くのことは人のホスピタリティが元になっているのだと認識したのである。これはよく考えればとても当たり前のことなのだが、実感できていなかった私にとってはとても勉強になった。

プレ・インターンシップを通して、一番うれしかった出来事は私がポップを描いた絵本を来館した女の子が借りてくれたことである。自分が一生懸命描いたポップをよく見てくれてカウンターまで本を持ってきてくれたときはここに体験に来て、頑張って仕事をしてよかったと感じた。以前は生きていくお金を稼ぐために働くと思っていたが、それ以上に学ぶことが沢山あったように思う。社会の一部となって働くことは人生における生きがいになるのだと強く感じた。

## 【21】福岡県立図書館・株式会社トーン

人間社会学部公共社会学科2年中村知華

今回プレ・インターンシップへ参加するにあたり自分の大学生活での行動を振り返ると、相手の話を最後まで聞き終わっていないにも関わらず話を中断し、相手の主張や話の全容を理解したと思込み自分の主張や主観で発言してしまう場面が多々見受けられたのではないかと思った。そのため話を本当に理解しないまま早とちりで勝手に納得してしまうことや話を途中で遮って自分の話を持ち出してしまう自分の行動を課題と感じ、その行動を起こしてしまうかもしれない場面を自分で把握し、発言のタイミングを見極められるようになることをプレ・インターンシップへ参加する目的とした。

前期では福岡県立図書館でお世話になった。資料やデータの扱い方などを中心に学び、実際に利用者を相手にした業務だけでなく、人目に付かない、公共施設の表からは見えない裏方の重要な業務を主に体験させていただいた。そのうちの図書の配架も保存資料のデータ入力も数多くの資料を個として識別し、特定の資料が必要なときに即座に手元に用意するためには必要不可欠な業務だと伺った。つまりそれらは図書館が図書館として機能するために必要な業務のひとつということで、恐らく図書館で行われている他の業務すべてにも同様に「それを行う必要性」があるのだと思う。一人ひとりが個人単位で行う事がすべてそれ相応の責任を伴うものであるという事実に社会人として行動することへの厳しさを感じた。

後期には雑誌編集、デザイン業務を手がける会社で体験をさせていただいた。前期の体験とは打って変わって業務の一つひとつで多くの人と関わる機会があった。ひとつの場で多くの人と対するのではなく、多くの場所へ赴きその場その場で人と交流を持つ営業の仕事に、自分自身で行うタイムマネジメントの重要性を実感した。また、相手の話を聞きつつ自分の話を相手に聞いて貰うための方法として、社会人の方々は相手の言葉をよく反復していることに気づいた。これは自分が話をきちんと聞いているということを相手に伝えるだけでなく、相手と自分との間に認識の齟齬がないか、相手が何を重視しているのかを確認するためにもとても役に立つと思った。そのため自分なりに会話の中に取り入れることを意識し、結果としてプレ・インターンシップへの参加の目的でもあった会話を遮ってしまうという自分の課題の解決と、相手との話をスムーズに行う対話能力の向上に繋がったのではないだろうかと思う。

プレ・インターンシップに参加することで働くということは社会と繋がりを持ち、仕事を通して社会に貢献することで自身の社会的役割を確立し、社会に居場所を確保するための手段なのだという、働くことへの自分なりの解釈を持つことができた。今後も自分が将来働くところになることを念頭に置いて今回知ることのできた対話の方法を意識することなく行えるように他者との会話を重ね、同時により正確に話の焦点を把握することができるように留意していこうと思う。

## 【22】福智町図書館・歴史資料館 ふくちのち

人間社会学部公共社会学科2年 平井李奈

夏季の体験報告書にも書いたように現在私は公務員試験の対策講座に参加しているが、正直なところ就職についていまだ検討中である。私がなぜプレ・インターンシップに参加しようと考えたかという、就職のことについて自分自身よく考えられていないと思ったからである。こういった方面の仕事に就くかさえもあいまいであることに危機を感じ、何かしらの経験を積むことはプラスになると考えた。正直インターンシップ自体は就職サイトなどでもいくらでも募集されているし、地元の定住財団からの勧誘もあるが、大学がサポートしてくれるプレ・インターンシップ事業は今後どこかでインターンをする時に挑むときの姿勢の参考にもなると考え参加した。事前研修で学んだ中で役に立ったことはやはり、実際にインターンに臨む時にどんなことを知っておけば良いのか知ることができたことである。名刺交換や電話対応などはプレ・インターンシップの中ではほぼなかったため、細かい実技は必要なかったが、今後企業主催のインターンなどに行った時などには必要かも知れないと考えた。

今回実際に働いてみて、受け入れ先で苦労したのは指示内容の解釈違いや指示不足があったところだ。たとえば、言われた通りに出来ていると思った作業が実は少し違っていたということが起きた。作業内容の確認などはできるだけ行うようにしていたが、もっと具体的かつ言われた範囲外のことも確認していくことが必要だったと感じた。5日間で業務の意味などをすべて理解するのは困難なことである。しかし、その中でもっと間違いを少なくする工夫をしなければいけないと思った。

今回のプレ・インターンシップを通して頑張ったことは、本のブッカー掛け、帯の選定、帯を本に貼る作業、新着本受け入れにて本にハンコを押す作業、タグ付け、館内掲示の作成など、集中力が必要とされるところで集中して出来たことだ。一番力を入れたのが図書館の館内掲示を作成するという業務だ。この業務を全て任せていただき、比較的自分の得意分野だと感じたので積極的に提案・計画し、分担をスムーズに決めることができた。役割をふった人物の能力を把握しきれていなかったため、少し時間がかかったが、計画をすべて実行することができた。

今回のプレ・インターンシップを通して、図書館業務の表からは見えない細かい作業を知ることができてよかった。今後の学校生活では体力面に不安を感じたので改善していきたい。将来の展望はまだ見えないが、参考になる経験ができたのではないかと考える。

### 【23】飯塚市役所・MTO税理士法人

人間社会学部 公共社会学科 2年 福田恵美子

私は大学生生活で、自分から意見を言うことや自分から行動するなど積極性が欠けていること、目上の人に対するコミュニケーションの取り方に慣れていないことを課題だと感じていました。このプレ・インターンシップに参加した目的は3点あります。1点目は、積極性や目上の人に対するコミュニケーションの取り方を身につけること、2点目は、職場の雰囲気とマナーを知り、大学を卒業して社会に出た時に、戸惑わないようにすること、3点目は、現在就職を考えている業種の業務内容に対するギャップがあるかどうか確かめることです。

夏季のプレ・インターンシップで体験した飯塚市役所では、ほぼ毎日、担当する部署が変わっていたので、その度に新たに仕事を覚えることや、担当される職員の方とどのようにコミュニケーションを取ればよいのかということに苦労しました。毎日顔を合わせる職員の方が少なく、職員の方と親しくなることが難しかったです。頑張ったこととしては、まず、自分から進んで笑顔で挨拶をすることを心がけました。次に、与えられた仕事が単純作業であっても根気よく取り組むことや、常に時間を意識し、次の行動や作業のペース配分を考えながら取り組むことを心がけました。さらに、業務内容のことなどで分からないことがあれば職員の方に質問・相談することや何か気付いたことがあれば、自分から進んで動いたというように、自分から積極的に行動することを心がけました。実際に働いてみて、自分が担当している仕事が遅れたら、他の人にも迷惑がかかるということ、思わぬトラブルが発生した時にどう対処するのか自分で考えて、必要があれば他の人に相談し協力を仰ぐということに働くことや社会の厳しさを感じました。

体験させていただいた受入先の方からは、作業をしている時に気遣って声をかけていただくなどのサポートや、職場で誰かとすれ違った時は必ず挨拶をするようにといった指導を受けました。また、自分なりに常に時間を意識するように作業に取り組んだ結果、時間内に終わらせることができました。また、他の人のために時間をみて行動しようとし、自分から気付いて行動できたことに、自分が一皮むけたと実感しました。

もしプレ・インターンシップに行っていなかったら、他の人に協力や助けを仰ぐことは恥ずかしいことではないということに気がつかなかっただろうと思いました。一番嬉しかったことは、事前に与えられた仕事だけではなく、追加の仕事を頼まれた時でした。自分が必要とされていると思えて嬉しく感じました。また、ただお金を稼ぐためだけに働くのではなく、仕事を通して自分が誰かの手助けになっていたり、反対に誰かへの手助けをしていたりするのを実感することができることに働く意義を感じました。これからの学生生活において、将来、自分のためになる、役立つと思う分野に関する勉強をしたり、そのことに関する資格を取得することに取り組みたいです。また、将来の夢や希望については、まだ具体的な職業は決めていませんが、地元就職し、大学などで学んだことを地元で還元できるような仕事に就きたいと考えています。この大学に進学を決めた理由の1つとして、このプレ・インターンシップを行っていることでした。実際に体験してみて、たくさん反省し、落ち込むこともありましたが、振り返ってみると多くの貴重な体験をさせていただき、一回り自分を成長させることができたのではないかと感じています。受入先の方々には、慣れないことが多くご迷惑をおかけしたことがあると思いますが、暖かく見守って下さり、私が少しでも仕事がやりやすいように多くのご配慮くださったことに感謝しております。

## 【24】一般財団法人源じいの森・ラピュタファーム

人間社会学部 公共社会学科 2年 藤森優花

大学生活 2 年目を迎え、先輩が就職活動を行うようになり、先のことだと感じていた就活を間近に感じ、就活までの 2 年間で何をすべきか考えるようになりました。その時、プレ・インターンシップを体験して実際に社会人の方が働く場に身を置くことによって、社会人になるまでに身につけるべきスキルは何か分かるのではないかと思います。プレ・インターンシップを受けることを決めました。

私が体験して気付いたことは、サービス業には目に見えない相手を思いやる気持ちで溢れているということです。お客さんが快適に過ごせる環境を提供するために今何をすべきかをその都度考え判断し、行動することの大切さ、難しさをプレ・インターンシップで体感することが出来ました。

また、私自身人見知りということもあり、働くときに欠かせない報告、連絡、相談を行うことに苦手意識があり、多少苦労しました。

そんな私はプレ・インターンシップ中、次の 2 つのことを主に意識して活動しました。1 つ目は、作業しながらも次のことを考えて行動することを意識して活動することです。そのため、受け入れ先の方から「仕事を覚えるのが早い」とお褒めの言葉をいただくことが出来ました。2 つ目は、人とのコミュニケーションの基本である挨拶をしっかり行うことです。そのお陰で受け入れ先の方々とスムーズにコミュニケーションをとることが出来ました。

プレ・インターンシップを通して得たものはたくさんあります。夏季・春季ともに地域に根差した企業で、地域の人口減少や高齢化の影響を受けながら営業しておられました。改めて日本の山積している問題は他人事でないと感じ、特に人口減少や高齢化が著しい地域にいる私に何が出来るか考えるようになりました。

## 【25】株式会社さくらトータルライフ

人間社会学部 公共社会学科 2年 前田颯汰

私は今後、社会人として社会に出る上で、今のまま出て大丈夫なのだろうか、と感じた。私の家族と親戚は公共団体、自営業、パートに勤めていることもあり、公的機関と一般企業ではどのようなことをするかほとんど知らなかった。無知のまま社会に出てはいけないという危機感の下、体験を行うことにした。事前研修では基本的なマナーを学んだ。幸い、マナーについては厳しい環境で育ったため、当たり前なことだと感じた。加えて、企業がどんなところであるかを自分なりに調べて、体験に参加した。

今回は、衣食住の「住」を担う不動産企業、「さくらトータルライフ」で体験を行った。体験であるため、専門的な業務は行わなかったが、貴重な体験ができた。以前は企業とはただ単純に利益を追求するものだと思っていたが、実際は、利益を求めながらも感謝されること、地域に貢献することも追求していると分かった。実際に、どうすればお客様が喜んでくださるか、よりよい暮らしができるかを考え、注意喚起の書類作成や間取図、販売図面の作成を行った。企業と利用者の考えを持って励まなくてはいけないと思うことができた。社会人としての厳しさ、苦勞については、スケジュールと体調の管理が挙げられる。スケジュールについては急に変わることもあり、事前に確認していなければすべきことの優先度を誤ったり、無駄な時間を過ごし、場合によってはしなくてもいい仕事、残業をすることになると分かった。体調については、予期せぬ事態も考えられるが防げることは防がないと迷惑をかけてしまうと感じた。これらについては、社会人になる前に学べて大変よかったと感じた。また、今のうちから習慣づけたいと思った。

作業をしていく上で、周りを頼ることも時には大切であるというアドバイスをいただいた。まじめな性格故に、自分で何とかすべきという行動がややあったと感じた。頼らないこともよくない、頼りすぎることもよくない。このバランスが難しく、自身ではいつも以上に周りを頼ったが、まだ頼ってもよかったのだろうかと思った。その一方で、十分な努力もしていたとも考えられた。体験を決意する前は、自分自身の力でやりきれないと不満になってしまうことがあったが、体験をしていく上で人に頼ることでよりよいものができると感じた。また、不満に思うことも減り成長できたと思った。

今回、プレ・インターンシップを通して、たくさんのことを学んだと感じた。もし、受講していなかったら未来のビジョンもはっきりせず、就職で悩んだり、就職してからうまくいかなかったかもしれない。未来を描くうえで、体験することの大切さは必須であると思った。また、利益を求めながらも感謝される仕事、地域に貢献する仕事が一番やりがいのある仕事であると感じた。これらを活かして残りの学生生活でチームワーク力や就職に対する意識を高めていきたいと思った。最後に、終始面倒を見てくださった教員の方々、受け入れをしてくださった企業、社員の皆様、本当にありがとうございました。

## 【26】いのちのたび博物館・中間市役所

人間社会学部公共社会学科2年 松下 茉由実

今回私がプレ・インターンシップに参加した目的は、社会人になるために必要なことは何かを知り、社会人としてのルールやマナーを学ぶためです。実際に自分の目で見て、耳で聞いて、体験することで、様々な対応の仕方やコミュニケーションの取り方を学びたいと思いました。また、プレ・インターンシップに参加することで、いろいろな職業について知り、自分の視野を広げることにつながると思ったからです。

夏期にいのちのたび博物館、春期に中間市役所とそれぞれ5日間体験させていただき、様々なことを学びました。いのちのたび博物館ではMT業務や学芸員業務のような博物館ならではの仕事から、接客や清掃なども体験しました。その体験の中で、あいさつや礼儀の大切さを学びました。体験初日は緊張していたこともあり、あいさつや返事の声が小さくなっていましたが、博物館の方々が必要な声で積極的にお客様にあいさつや声かけをしているのを見て、自分たちももっと大きな声であいさつや声かけをしていこうと思いました。それからはお客様には自分からあいさつをして、何か困っているように見えたら声をかけるよう心がけました。あいさつや礼儀を大切にすることが博物館の良い雰囲気をつくることに繋がることも分かりました。中間市役所では確定申告会場での利用者識別番号の発行業務や、書類の整理などを体験しました。確定申告会場での仕事は入力作業とともに実際にお客様とふれあうもので、コミュニケーションの取り方を学ぶことができました。様々な立場の方と接することで、それぞれに合った対応をとることが市役所はもちろん、他の職場でも大切になってくると感じました。高齢者の方が多く、その中にも耳や眼の不自由な方がいらっしゃるの大きな声ではっきりと相手にわかりやすいように確認することを心がけて仕事をしました。相手のことを考えて細かな配慮をすることが必要だと教えていただきました。

今回のプレ・インターンシップでは多くの方々に助けられました。特に受け入れ先の方々には、仕事の面ではもちろん精神的な面でもアドバイスをいただきました。私の質問にもやさしく答えてくださり、困っていないか気にかけてながら指導してくださいました。そのおかげで受け入れ先にも早く馴染むことができ、善いモチベーションでプレ・インターンシップを行うことができました。また、自分の考え方も前向きなものへと変わりました。最初はうまくできなかつたらどうしようと考えてしまい消極的だったところが、体験を通して仕事をこなしていくうちに、自然と自信がついて自分で考えて行動するようになりました。

プレ・インターンシップを通して、分からないことや曖昧なことはそのままにするのではなく、すぐに聞くことが大切だと気づきました。分からないまま曖昧なことをお客様に伝えることが最も良くないことであり、自分にとっても不安の残る選択であると感じました。プレ・インターンシップに参加する前は、人に分からないことを聞くのは苦手でしたが、参加したことで分からないことがあれば積極的に聞いて行動に移すということを、身につけられたのではないかと思います。プレ・インターンシップで学んだことや見えてきた課題をしっかりと頭の中に置いて、これからの日常生活や就職活動に活かしていきたいです。

## 【27】川崎町役場 健康づくり課（川崎町健康センター）

公共社会学科 2年 丸山真由子

私は今回のプレ・インターンシップで、川崎町役場の健康づくり課で五日間、体験をさせていただきました。川崎町役場を体験先として選んだ理由は、私が公務員志望ということで、行政に興味があったこと、また大学内に張られていた「かわさきパン博」のポスター等で川崎町のことを知り、川崎町についてもっと詳しく知りたいと思ったからです。

五日間、お世話になったのは川崎町健康センターというところで、川崎町役場とは施設が別になっており、町民の健康意識を向上・関心を持ってもらうために様々な取り組みを行っていました。健康栄養教室、健康運動教室、健康づくり教室、料理教室などたくさんの教室を開き、管理栄養士や保健師の方が直接町民に指導を行う様子を見学させていただきましたが、それと同時に、この教室を開くことで地域の方の交流の場になっていると気づきました。特に高齢者の方は、外へ出かけることも少なくなり、自然と家に引きこもりになりがちですが、このような場を設けることで、健康意識の向上かつ人と会話することもできるので、素晴らしい取り組みだと思いました。また、このような教室は公民館や隣保館などでも行われるので、施設の外へ訪問することが多かったことも新たな発見でした。

このように川崎町保健センターは地域の人々との関わりが多いため、コミュニケーションが必須でした。私は普段高齢者の方と話をする機会がほとんどないので、どのような話題で、どのような目線で話をしたらいいか分からず、初日は教室の参加者と会話することはできませんでした。職員の方と参加者の会話を見ながら、コツをつかみ、最終日には積極的に会話できるようになり、コミュニケーションの重要性を学びました。コミュニケーション力としては完全ではありませんが、少しはこのスキルが身についたと思います。

今回川崎町保健センターで体験させていただきましたが、改めて、公務員という職業への目標が強まりました。体験期間内に、課長から川崎町役場内を案内していただき、町役場の存在意義など課長とお話をさせていただく時間もあり、就職活動をする際に、今自分が何をすべきなのか、自分の武器を今から作らなければならないと学びました。そのために勉学に励むことも重要ですが、それと同時並行で、新しいことに挑戦していこうと思います。

## 【28】伊加利子鳩保育園・田川市社会福祉協議会

人間社会学部社会福祉学科 1年 落合志帆

私がプレ・インターンシップに参加した理由は、将来、どのような職業に就きたいのか全く決まらないため、実際に仕事を体験し、職業選択に生かしたいと思ったからです。また、私は自分の気持ちや意見を人に話すことが苦手なため、プレ・インターンシップを通して、考える力とそれを伝える力を身につけたいと思い、参加しました。

私は、夏季に伊加利子鳩保育園、春季に田川市社会福祉協議会に行きました。2か所とも人の生活をサポートする現場でした。そこで私が1番学んだことは、自立支援ということです。保育園では、子どもの考える力を身につけさせるという部分が自立支援だと思いました。子どもを叱るときには、「ダメ」「謝りなさい」と言うのではなく、「どうしてこんなことをしたの?」「これをされたらどんな気持ちになるかな?」というように聞き、子どもに考えてもらうことを大切にしていました。また、子どもと話すときやこうしてほしいというときに「待ってて」「並んでね」と1言で済ますのではなく、理由を伝えると理解してくれることが多かったです。しかし、改めて理由を考えると自分でも分からなかったり、この理由であっているのかな?と思うことがあり、普段きちんと理由を考えていないということが分かりました。1つ1つのことに意味があることに気づくことができたので、理由をきちんと考えながら過ごしたいと思いました。社会福祉協議会では、介護福祉士やホームヘルパーの方などからお話を聞いたり、実際に社会福祉協議会のサービス（移送サービスや自宅介護など）に同行させてもらいました。その時、どの方も「自立支援を大切にしている」と言っておられました。そのためには、「大丈夫ですか?」「できますか?」「これをやってももらえますか?」といった声掛けをいつもしているそうです。利用者（要介護者）が自分でできることも支援者が全てやってしまうと、その時は楽だと思うけれど、今まで自分でできたこともできなくなり、より不自由な生活を送ることになります。利用者と支援者のコミュニケーションが大切だと思いました。

私がこのプレ・インターンシップで成長できたと思うところは、自分の気持ちや意見を伝えることができるようになったところです。これまで、「どうだった?」と聞かれてもなかなか答えることができなかったけれど、答えることができるようになりました。感じたことを伝えると、「これはこうでね」と新しいことを教えてもらうこともできたので、自分の意見を伝えることの大切さや利点に気づくことができました。

2回のプレ・インターンシップを通して、多くの方の話を聞かせて頂きました。その時、どの方も「今（大学生のときに）しかできないことがたくさんあるから挑戦してみてね」と話しておられました。これまで、ボランティア活動やサークル活動に参加しようと思っても、なかなか1歩を踏み出すことができませんでした。しかし、プレ・インターンシップを通して様々なことを学べたように、参加したり挑戦してみないと学べないことがあると気づいたので、ボランティア活動やサークル活動、アルバイトなど、様々なことに参加してみようと思いました。プレ・インターンシップでは、普段の学生生活ではできないことをたくさん経験させていただきました。大変なことも多かったけれど、自分の成長につながったと思えることもあり、就活や社会に出てから必要なことも学ぶことができました。プレ・インターンシップに参加してよかったです。

## 【29】田川市社会福祉協議会・行橋図書館

人間社会学部 社会福祉学科 1年 重野朝香

私は大学に入学してからの一年間で、サークル活動やアルバイト、ボランティア活動など、様々なことを経験して、高校の時より幅広い年齢の方と接する機会が多くなりました。その中で私度々、目上の方へのマナーを知らずに接したり、正しい敬語を使えず注意されたり、と自分の未熟さを痛感する機会も多くなりました。これらの失敗は、実際に注意されるか、どこかで教えてもらわないと自分では気づけないことばかりで、失敗するたびに私は、大学生のうちに社会人として恥ずかしくない振る舞いを学びたいと思っていました。「社会人としてのマナーを学ぶこと」。これが私のプレ・インターンシップを受講した第一の目的です。実際に事前研修では、正しい敬語や名刺交換の仕方、企業への電話のかけ方など、まさに私が学びたかったことを教えていただきました。また自分では深く考えることがなかった「働く意義」についても考えさせられ、自分が何に気づいていないのか、職場体験をする明確な目標の設定を事前に行うことができました。

夏季インターンでの受け入れ先は田川市社会福祉協議会（以下、社協）でした。福祉関係の職場と社協の仕事内容に興味があったので、この受け入れ先を選びました。社協では訪問介護・宅配食サービスの他に、地域の高齢者の方に積極的に外出して人との交流の促進を目的とした事業（カラオケ大会・折り紙教室・交流サロン等）を多数行っていました。いかにして地域の方が参加しやすく継続できる事業にするか、職員さんが試行錯誤していることが分かりました。継続力があり参加しやすい事業計画を立てること、対象・事業の目的が明確であること、反省して改善していくことの重要性を学びました。冬季インターンの受け入れ先は行橋市図書館でした。公共施設の運営に興味があったので、この受け入れ先を選びました。限られた職員内で図書館という広範囲で繊細な管理を行うことの難しさ、利用者さんが図書館を心地よく利用できるように多忙でも冷静かつ機敏に行動する大切さを学びました。利用者さんで困った方がいた場合、福祉従事者も関わることがあると伺い、地域連携の具体的な参考例になりました。

社協も図書館も受け入れ先の職員の皆様は、御多忙の中私に業務の説明・意義を教えてください、私からの質問にも丁寧に分かりやすく教えてくださいました。就業力向上支援室の方も、送付状やお礼状の文章の添削や指導をしてくれました。初めてのことばかりの私にとって、受け入れ先に送る文章の訂正をしてくださったことは大変助かりました。

自分自身の反省点としては、職員の方が私の緊張を解そうと雑談をしてくださると、気が抜けてしまい言葉遣いが誤ってしまうことが多々あったことです。どんな場でも目上の方への態度に気を付け、自分を客観的に見て態度を正していくよう気を付けます。プレ・インターンシップを受講したことで、まだまだ至らないところはありますが、社会人としてのマナーの基礎を学ぶことができたので、今後の学生生活で以前より自信を持って目上の方と接することができそうです。また、就職に活かせると思うので受講して本当に良かったです。実習先の職員の方々の誰かを喜ばせようと懸命に働いている姿を見て、私にとって働くことは、誰かの役に立てるやりがいと喜びを得られるという意義があると思いました。御多忙の中、右も左も分からない私に丁寧な指導をしてくださった受け入れ先の皆様、就業力向上支援室の方々、誠にありがとうございました。

### 【30】田川市社会福祉協議会・田川市立鎮西小学校

人間社会学部社会福祉学科 1年生 林 光星

今回、自分がこのプレ・インターンシップを受講したのは、実際に社会人が働いている現場を見ることが、普段は得られない知識と経験を得たいと考えたからである。自分は現在社会福祉学科で児童福祉について勉強をしている。まだ1年生とは言え、少しずつ専門用語や制度についての講義を受講し、その理解に励んでいる。しかし、福祉職において自分が対象にしなければいけないのはそれぞれが違う考え方を持つ『人』である。必要なのは臨機応変にその人に合った対応をすることであり、そのためには現場で働き、多くの経験を積むことであると自分は考えている。そういった理由から実際に児童を相手にしている現場に行く事でその職員の方々から何か得られないか、と考えて本講義を受講することにした。

実際に現場を体験して気付いたのは、自分で判断して行動することの困難さである。今回春季と夏季で体験させていただいた職場はどちらも担当者の下を離れて、自分で行動する場面がほとんどであった。子供が大勢いると些細なことから諍いが起き、指導者が介入しなければいけないという事態が多々起こる。たとえば春季の体験先である田川市立鎮西小学校では、休憩時間などは学級の担任から離れて一人で子供たちの相手をする必要があった。そんな中で喧嘩などが起きたりすれば、そこに介入して子供たちを鎮める、ということ自分で行わなければならない。そういう場合にプロである教師の方々の指示を仰いだりできないのはやはり強い不安があった。仕事というものは大きな責任が生じるものだということを改めて実感した。また、大勢の子供たちの相手を一人でする、というのは単純に体力的にも辛かった。しかしそれは子供たちが自分に心を開いてくれているように感じられて嬉しくもあった。

そんな計10日間の体験も、多くの嬉しい出来事に支えられて乗り越えてくることができた。たとえば春季の体験先では、子供たちから似顔絵の入った手紙を何枚もプレゼントされたり、最終日に児童に泣かれたりと、自分なりに彼らに受け入れられることができたんだな、と少し自信を持つことができた。また、担当者や周囲の職員にも恵まれていたと思える。きちんと一日の終わりに反省や課題、そして評価などを行ってもらえる事後指導の時間を設けてくれたり、体験中にも気さくに声をかけてくれたりと、自分たちのメンタル面にも気を使っただけだったので、非常にやりやすく体験を行えた。特に事後指導のおかげで、その日の自分の課題を再確認して翌日それを意識しながら体験ができる、というかたちが取れた。どちらの体験先にも多大な感謝でいっぱいである。

プレ・インターンシップを1年時に受講することで、早いうちから卒業後に働くということを意識することができた。今自分が何のために勉強しているのか、取りたいとしている資格でどのような仕事をしたいのか、改めてそういったことを確認できた。自分としてはこれが非常にプラスになった。自分は子供が好きで、少しでも子供たちの力になりたいため、児童福祉について勉強している。単純なものだが、現場を実際に経験してすることでそれを思い出すことができた。自分が就きたい職業は、実際はどういった現場でどういった仕事をするのか、ということ早いうちから体験するという意味でも、本講義は非常に大きな意義のあるものだと考える。忙しい中、学生の受け入れを行ってくれた体験先や多くの学生を体験のためにサポートしてくれた就業力向上支援室の先生方のためにも、今回の体験を今後活かしていきたい。

### 【31】田川市立病院・児童発達支援センターきらり

社会福祉学科一年 原口裕美子

私がプレ・インターンシップに参加したのは、自分の課題を見つけたいと思ったからだ。大学に入って漠然とした不安感があり、卒業後のために今何をすべきなのかを知りたいと思い、参加した。夏の事前研修ではマナーや心構えなどをわかりやすく教えていただいた。今思うと夏の時点ではどこがどう大切か完全には理解しておらずあまり身になっていなかったが、実際に就業を体験した今見直すと、確かにそうだったな、と改めて大切さを感じた。

実際に働いてみて、まず毎日働くことの大変さを感じた。夏季も春季も9時ごろから17時ごろまで体験をさせていただき、一日がとても長く感じた。帰宅後はへとへとで何もしたくないと思ったり朝眠い中お弁当を作ったりという、普段の生活では体験できない大変さを味わった。また、自分の言葉を伝えることに苦労した。職場での声のボリュームがわからない、感謝ややる気をどうアピールしたらより伝わるのかわからないと悩んだ。そして社会人の責任の重さを感じた。正確で丁寧かつスピードが求められ、妥協は許されないということ。社会の厳しさとしてよく耳にするが実際に間近で感じないとわからないと思った。

どちらの受け入れ先もお忙しいにもかかわらず、こちらが成長できるようにと沢山の配慮をしてくださった。市立病院では、5日間のスケジュール表を作成してくださったり、事前訪問の際に伝えた「電話対応がしたい」という要望にも応えてくださったりと、様々な貴重な体験をさせて頂き、快く受け入れてくださった。きらりでは、時間をとって事業の説明をしてくださり、こちらのやりたいことをきいてもらい、体験期間とは別に振り返りの機会を頂いた。体験途中で伝えた要望も積極的に聞いてくださり、実習生は他にもたくさん来るはずなのにとても温かく迎えてくださった。また同じ体験先に行った吉岡さん（市立病院）、平名さん（きらり）とは、お互いに5日間支えあい頑張った。それぞれ、伝えたいことをしっかり伝える力や次を常に考える力、余裕を持った時間設定など見習うところがたくさんあった。そして就業力向上支援室の方々にたくさんのサポート、俊敏な対応をしていただいた。特に春季体験前に、岡田さんにしていただいた個人面談は、受身から考え方が変わった大きなきっかけになった。言葉を補いながら聞いていただき、自分の中で未整理な部分をすべて引き出してもらった。やりたいことを明確にすることでやることのポイントがつかめ達成しやすくなった。

プレ・インターンシップに参加して嬉しかったことは、自分の考えがクリアに整理されたこと、マナーなどの知識が増えたことである。働くことは、生活のためのお金を稼ぐことが前提であるが、結局は自分が毎日大変でも働き続けられるモチベーション（職場の人、仕事のやりがい、環境）があることが大事であると感じた。これから、まだまだ自分には経験が足りなさすぎるので大学生のうちに自分一人ではできないことにひたすらチャレンジしたい。またそのようなチャレンジの後の反省も忘れずに行いたい。地道にマナーや言葉遣いを自分のスキルにしつつ、就活中自分が満足できて長く勤められる仕事を見つけたとき、その仕事に就けるような人になりたい。

最後に、今回受け入れて下さった田川市立病院の皆様、児童発達支援センターきらりの皆様、そして就業力向上支援室の方々に心から感謝いたします。プレ・インターンシップに参加して良かったです。ありがとうございました。

## 【32】ジョブサポートセンター八幡

社会福祉学科 2年 加賀 麻梨耶

今回、私がプレ・インターンシップに参加しようと思った理由は3つあります。1つ目は大学では学ぶことの出来ない働くことの大変さや職場の環境、仕事内容など多くのことを自分の目で見てみたいと思ったことです。2つ目は今の自分に特に足りていないと思うコミュニケーション能力を身に付けたいと考えたことです。3つ目は自分が興味を持っている職種について理解を深め、将来どのような仕事に携わりたいと思っているのか考えるきっかけになるのではないかと思ったからです。事前研修は行いませんでしたが受入先のホームページを読み、事業についてインターネットで調べ、障がいの種類などを大学の教科書で事前に学習しました。

実際に働いてみて、利用者の方々の障がいの特徴をしっかりと把握しておき1人ひとりに合わせた支援を行うことが大切であるということに気づきました。苦勞したことは、5日間という短い期間で利用者の方々に信頼してもらえるようになることです。やはり利用者の方々は私よりも職員さんの方が話しやすく、理解してくれていると分かっているので、私はほとんど関わることが出来ませんでした。しかし、自分から利用者さんに積極的に話しかけることや興味のある話に耳を傾けることで次第に声をかけてくれるようになりました。その時に頑張った良かったと感じました。また、社会人になると朝から夕方まで働くので規則正しい生活を学生の時から習慣づけようと思いました。体調を崩してしまうと仕事が進まず、周りの職員さんに迷惑をかけてしまうので日頃から体調管理に気を付けておくことが大切だと感じました。

受入先に送付状を作成する際に書き方が分からず困っていた時に、就業力支援室の先生方が詳しく教えて下さったので参考にさせて頂き、作成出来るようになりました。インターンシップ初日はセンター長さんから事業の内容について詳しく説明して頂き、就労に向けての訓練内容や就労の現状・課題について沢山学ぶことが出来ました。他にも利用者さんと上手くコミュニケーションを図ることが出来ず悩んでいた時に、職員さんが「無理にコミュニケーションを図ろうとすると気持ち的にきつくなってしまうので無理にコミュニケーションを図ろうとしなくて良いと思いますよ」とアドバイスを下さり、その言葉を聞いた時に自分の気持ちが楽になりました。そのうえで利用者さんが苦手な環境の中で訓練を行うことになった時に少しでも楽しんでもらえるように利用者さんの好きな話題を話ながら一緒に訓練を行うなど自分なりに工夫をしました。利用者さんから「あなたが一緒に来てくれたからこの場所に初めて訓練が終わるまで居ることが出来たよ、ありがとう」と言ってもらえた時に頑張った良かったと実感し、とても嬉しかったです。

もし私がプレ・インターンシップに参加していなかったら難しい仕事が多いがその分やりがいも感じられることや利用者さんを支援していくためにはお互いに信頼関係を築いていくことが大切であるということ、報告・連絡・相談は必ず行っているということを経験出来なかったと思います。

これからの学校生活では、積極的にボランティア活動に参加したいと考えています。また、障がいの特徴についての知識を増やすために沢山の本を読んでいきたいです。そして、将来は社会福祉士として障がいのある方々が生活しやすい社会を作り、より良い支援を行っていただけるような人になりたいです。プレ・インターンシップを無事に終わることが出来たのは、支えて下さった大学の先生方、友達、受入先の職員の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

### 【33】北九州市立子育てふれあい交流プラザ元気のもり

人間社会学部社会福祉学科2年古賀晴奈

わたしは、大学生活において社会に出る前により多くの経験を積むことが課題であると感じていました。大学では多くの講義を受けて座学で学んでいますが、実際に起きることが全て教科書通りでないということは多くの先生方から聞いていました。何も経験しないまま就職をして、いきなり教科書に載っていないことに対応できるのか不安な気持ちがありました。福祉職は、失敗は許されないものであると考えます。少しでも実際の社会はどのようなことがあるのかを知るために、プレインターンシップに参加してみようと思いました。事前研修では、特に「挨拶」について学んだことが印象に残っています。挨拶はすればいいものではなく、同時に表情や声のトーンなども重要だということです。

実際に働いてみて、北九州市立子育てふれあい交流プラザ元気のもりでは様々な形で「子育て・親育ち・地域育ち」のサポートが行われていることが分かりました。今回のプレインターンシップで全てのサポートを実際に経験することはできなかったけれど、体験できたサポートには全て目的があり、その目的を達成するために職員の方々が協力していました。サポートを行っていく中で、たくさんの笑顔やお礼の言葉をもらえる仕事でした。しかし、いいことばかりではありません。サポートを利用する中で、思い通りにいかなかった親御さんがカンカンに怒って感情をぶつけてくる場合もあるのです。わたしも一度その感情をぶつけられました。親は子供のことを思い必死に訴えていることがよくわかりました。全員同じサポートではうまくいかないこともあり、個人にあったサポートを考え直す必要があることに気づきました。教科書通りでは上手くいかないこともあるということを学びました。

今回のプレインターンシップで担当をしてくれた方は、振り返りの時間を毎日1時間以上必ず取ってくれました。その時間に質問などを聞いてくれました。また、多くのためになるお話をしてくれました。その中でも、普段の生活を何も考えずに過ごすのではなく、「なぜ、どうしてそうなるのか」という疑問を常に持ち続けること、その疑問に対する答えを自分なりに考えることを日ごろから心がけることが、自分の成長につながるということが印象に残っています。何気ないことでも意味があり前史があるのです。そのことを考えながら生活してみると、普通の日常も少し意味のあるものを感じました。疑問を持ち考えることによって、様々な視点から物事を考えられるようになった気がします。

プレインターンシップで学んだことは本当に多く、この学んだことを自分の成長と新たな学びに繋げていこうと思います。働くことは自分が生活をするためでもあるが、達成感や生きがいを得るためでもあると思いました。そして働いていく中で、学ぶことも多くあります。わたしは、将来働くことで達成感や生きがい、学びを得ながら、困っている人の支えに少しでもなりたいと思います。プレインターンシップで自分の考え方の変化を実感しています。このような機会を作ってくださった方々に感謝しています。ありがとうございました。

### 【34】庄内温泉筑豊ハイツ

人間社会学部社会福祉学科 2年 竹下ちひろ

私は、4月に行われたプレ・インターンシップの説明会において実際の社会を目で見て自身の成長につなげたいと思い、受講を決めました。また、慣れない場所や初対面の人を目の前にすると思うようにコミュニケーションをとることができませんでした。そのためそれを克服することを自分の課題にしました。実習の事前研修では挨拶の仕方や丁寧な言葉遣い、名刺の交換等のビジネスマナーを学びました。

実習が始まり、まず初めに気が付いたことは人間関係の風通しが良いということです。仕事をやる上でよく話し合いをし、効率的に分担してきばきと作業をする様子はもちろんですが、少しの休憩時間にプライベートな話を楽しまれている様子も勉強になりました。やはり仕事の話ばかりでは人同士の距離は縮まりませんし、適度に楽しい話をするので気分転換になり、また仕事を頑張ろうと思えるのではないかなと感じました。受け入れ先で苦労したことは、客室清掃での体を動かす作業でした。長い廊下に掃除機をかけたりベッドメイキングをしたり布団を運んだり、とにかく体力を消耗しました。私は普段運動をせず、運動部に所属していたわけでもなかったため非常に大変な作業でした。しかし清掃をした後の部屋を見ると自分の頑張ったことが目に見え、お客様が快適に過ごせる状態になったことに満足できました。ゆえに、規則正しい生活をして運動をすることは体力をつけるために、基本的なことですが非常に大切なことだと痛感しました。

客室清掃をさせていただいた際に、お部屋を綺麗に整理して帰られるお客様がいらっしゃいました。私は従業員が片付けやすいようにして下さったその気遣いに感銘を受けました。そのため、自分も宿泊施設に泊まる際にはマナーを守り、そのようなちょっとした気配りができるとよいと感じました。また、この経験を経てから飲食店で食べ終わった後に片付けやすいようお皿を重ねたり、コンビニエンスストアで商品を受け取る際に「ありがとうございます」と一言お礼を言ったりするようになり、従業員の方に感謝の気持ちを持って配慮するようになりました。このことは社会の中で生きていく上で、自身の成長につながったと感じています。

一番自分が嬉しかったことはレストランの業務の中で接客する際に笑顔を中心掛けていたら、お客様から「最近笑顔の良い方が入られましたね」とお褒めの言葉を頂いたことです。やはり接客をする上で迅速な対応ももちろん大事ですが、笑顔があるのもっと良い印象を与えられると思いました。そして笑顔でいると、従業員の方にも話しかけてもらい自分自身も晴れやかな気持ちになり、相乗効果があることに気が付きました。また、箸と爪楊枝を箸入れに入れる作業が私の中で印象に残りました。淡々とした作業でしたが、終わった後に従業員の方に「最近忙しくて紙ナプキンが減っていたからすごく助かったよ」という言葉を頂きました。その言葉を聞き、自分がしたことで誰かに感謝されるのはこんなにも嬉しくモチベーションが上がるものなのだと思います。そのため、人はこのようなことに働く意義を感じているのではないかと私は考えます。

この経験を通して、プレ・インターンシップに行かなかったら気が付かなかった大切なことを実際に目で見て肌で感じ、非常に良い勉強になりました。そして、このように貴重な経験をさせる機会を下さった就業力向上支援室の先生方、温かく迎えて下さった受け入れ先の従業員の方々等に心より感謝申し上げます。

### 【35】香春町役場

人間社会学部 社会福祉学科 2年 永光 裕美

私は8月17～18日、21～25日、28～30日の10日間、香春町役場でプレ・インターンシップを実施させていただきました。この講義を履修した動機は、働くということについて理解したい、2年次、3年次で実施する学科の実習に備え、インターンシップに参加しておきたいと考えていたからです。また、香春町役場をインターンシップ先に選んだのは、自身が公務員を就職希望先の一つとして考えていることと、町役場という公務員が働く場所へ実際に参加し、役場職員の仕事について学びたいと感じたからです。

インターンシップを行うに当たって、私は町役場と公務員の仕事について学ぶこと、一日一個目標を定め、良かったところ、悪かったところを振り返ること、一日一個以上質問をすることを目標とし、達成できるよう心がけながらインターンシップに取り組みました。これらの目標は、10日間を通して概ね達成できたと考えています。この目標設定・達成はできなかつたとしても継続することで自己を成長させることができたと感じたので、以降も継続できるよう励んでいきたいと感じました。しかし、悪かったところやできなかつたところが同じものが数日間続くなど、見つけにくいと感じたので、自分の長所短所を明確に理解すること、客観的な視点を持ち物事だけでなく自身を見ることができるようトレーニングをしていきたいと感じました。

実習期間中は、役場内の様々な部署で学ばせていただきました。総務課では取材、広報誌作成、農業振興課では町をまわって農地や水路の確認、税務住民課では家屋調査や書類作成体験、税についての講義、ゴミ処理施設の見学、保健健康課では検診受付の電話応対、献血の手伝い、教育課では図書室業務、事務作業、フラダンス教室、まちづくり課では地域おこし協力隊の皆さんの定例会への参加、まちあるき体験、福祉課では保育所での子どもたちの見守り、子育て支援センターや就労継続支援B型事業所の見学、学童学習支援補助など、たくさんの業務に触れ、たくさんの年齢の人々とコミュニケーションをとることができました。役場、公務員の仕事と言えばデスクワークや受付の仕事というイメージを抱いていたのですが、実際には現場の仕事も多く、窓口以外でも地域住民の方々と接する機会が多い仕事だと実感しました。また、電話応対や意欲のある姿勢をアピールすること、自身の意見を積極的に述べることを評価していただき、自分でもしっかりできていたと感じました。その場で疑問に思ったことへの質問に加えて、公務員・役場の仕事や私自身の就職などについての質問に対しても職員の皆さんと話せたことはよい経験となりました。

そして夏季のプレ・インターンシップを終え、学科の実習や研修会を通して、私は公務員という職業について理解を深めることができたと考えています。同時に、自己覚知にもつなげることができたため、自分が将来にむけてどのように歩んでいけばよいのかを改めて考える良い機会となりました。今回の体験で学んだことや気づき、教えていただいた思いを忘れず、今後の学生生活に生かしていきたいと考えています。

### 【36】小郡市社会福祉協議会

社会福祉学科 2年 馬場温子

福岡県立大学の社会福祉学科に入学してから、未だに私自身に進みたい社会福祉の分野が明確に決まっておらず、また経験型実習の前であったので、高齢、児童、障害、地域などの分野がある社会福祉協議会の実習を体験して、今後の自分の進みたい分野を見つけていこうという理由のため参加しました。また、事前研修や日々の講義で初対面の人に対しての印象は5～10分で決まるということを知り、体験中にはそこにおいて重点的に気をつけて行いました。

8月16日から8月31日までの10日間、小郡市社会福祉協議会の方に体験させていただきました。初日から緊張で利用者の方とうまくコミュニケーションを取れずにいた時があり、相手との距離感を掴み損ねているところがありました。また、積極的にコミュニケーション出来ず、どのように接すればいいかわからない時もあり、戸惑って何もできずにいました。社会人として働くこと、特に社会福祉の職種においてはコミュニケーション能力が大事であることを体験の中で感じました。

上手くコミュニケーションをとりたいと思い、周りのボランティアの方の接し方を見習い、少しずつ距離を詰めていこうと努力しました。また、事前研修で学んだことや周りの職員の方やボランティアの方の行動を見習い、何度も障害をもつ子と接していく内に、最初は上手くコミュニケーションを取れなかったのですが、少しずつコミュニケーションが取れていきました。そして、私も次第にとっても楽しく感じるようになり、コミュニケーションの仕方も少し掴めていきました。また、共同募金の名簿の確認、図書カードを型紙に挟むこと、部品と道具の整理、確認など事務作業で小さい作業でしたが、その小さい作業の積み重ねで、持続する力と忍耐力などを学び、これからの勉学に忍耐強く、小さいことから積み重ねることの大事さを学びました。また、社会福祉協議会についての概要や社会福祉のことについて、教えていただきました。大学の講義では分からなかった活動を学び、実際に体験させていただいたことは、今後の自分の進みたい分野の参考になりました。

プレインターシップの体験を通して、一番嬉しかったことがあります。私が担当していた子と上手く話せたことです。最初は、少しずつコミュニケーションを交わしていき、出来るだけ目を見て話を聴くようにしていました。すると、次第にその子も目を合わせて話し、最後は身体を動かす遊びを一緒にしてくれるようになりました。そこから、その子が心を少し開いてくれたのではないかと感じ嬉しく思いました。このことを通し、働くことへの生きがいも少し分かりました。プレインターシップは、10日間のインターシップで短い間ですが、その時だけ職員の方々の立場に立つことができ、自分の将来の職種の方向性や勉強する時間を持てる強みがあることが分かりました。プレインターシップの体験もあり、その後の実習などその時に学んだことを生かすことができました。今年も実習があるので、学んだことを実行していきたいと思えます。

### 【37】福岡県水産海洋技術センター

人間社会学部人間形成学科2年 有森のはら

自分は、大学生活やアルバイトをやっている中で、自分の課題は、対人関係にあると感じていました。それは、自分がもともと人見知りであることに原因があると思っていました。したがって、プレ・インターンシップを受講した理由は、社会の礼儀やマナーを学ぶためではなく、自分の対人スキル・仕事に対しての視野を広げることが目的でした。

事前研修では、社会の一般的なマナーについて教わりました。もちろん、社会のマナーも大事なことだし、とても参考になりました。特に、名刺交換などは、社会に出てからでしかしないことだと思います。アルバイト先では、そこまでちゃんとしたマナーについては教わらないので、プレ・インターンシップ以外でも役に立つことを学ぶことができました。

実際に福岡県水産海洋技術センターで働いてみて思ったのは、皆さん役割がしっかり分かれているということでした。そのように感じたのは、毎日、担当していただく課が違ったのですが、毎日のように外に出て、行くところが違っていただけだと思います。夏季に行った美術館では、館内で動く仕事がほとんどだったので、このように実際に海に行って水質調査やカキ養殖場の視察など外に出ることに驚きました。そして、やってみて苦労したのは、移動の多さと行った現場の漁場の人の話し合いの多さでした。そこには、養殖場をよりよくするためにはどうしたらいいかなどのより良い環境を作るための協力の大切さがあることがうかがえました。

今回のプレ・インターンシップで頑張ったのは、会話をするということです。とにかく、担当者や自分に関わってくれる方々と会話をするということでした。そうすることで、自分にとって学びやすい環境をつくり、なおかつ今回の目的である対人スキルの向上を狙いました。この結果、自分の質問しやすい雰囲気を作ることもでき、今後の役に立つ経験になったと感じました。

今回の受け入れ先の仕事を見ていて厳しいなと感じたのは、漁師さんがあまり魚を取れなかった時の対応や、時化たときは船が出せないなので調査ができないなどの点でした。私は、このような仕事にも対人スキルというものは必要なのだということを初めて知りました。

この受け入れ先が決まってから受け入れ先の方から出してほしいという書類があったのですが、その書類をぎりぎりに就業力向上支援室に持って行って相談したところ、迅速に行動してくださいました。自分が困っているとき、すぐにサポートしてもらえてよかったです。

私は、今回のプレ・インターンシップでこんなにも楽しそうに仕事をしている方々を見られて本当に良かったなと思いました。自分が好きなことをしていच्छやるのもあると思いますが、職場の雰囲気などはどこに行っても大事なものだと感じました。自分は、学校生活においてサークル活動などで、しっかり自分の周りのことを見ることができているのだろうかと思いました。これからは、サークル活動やアルバイト先でもよい雰囲気で活動できるような会話や指示ができるように頑張りたいです。

就業力向上支援室の方がこの受け入れ先を提示したとき、自分は運がいいなと思いました。自分は、元々水産に興味があったので、このような受け入れ先を見つけてくださったことを本当に感謝しております。この受け入れ先に行けたことで、自分か無理だと思っていた道が広がったように感じます。本当にありがとうございました。

### 【38】社会福祉法人 田川市社会福祉協議会

人間社会学部 人間形成学科 2年 尾首 優花

私はプレ・インターンシップの目的として、社会人基礎力を向上させるということを掲げていました。社会人基礎力の中でも特に、組織への参加・コミュニケーション力という項目から構成される対人基礎力の向上を目指しており、それには理由がありました。それは、自分の普段の表情や言動が、相手に好ましくない印象を与えてしまうという自覚から、その改善を課題としていた為です。これは大学生活に限ったことだけでなく、日常的な課題として抱えていたことであったため、今回のプレ・インターンシップという機会をこの自己課題の改善の場として活用し、対人基礎力を向上させるということを試みました。

実際に働いてみると、自分が思っていたよりも関わる方々の人数が多かったということに驚きました。特に田川市社会福祉協議会では、協議会の職員の方々だけでなく、ホームヘルパーや介護福祉士、地域包括支援センターの方々といった、様々な職業の方と接する機会が多くあり、同時にその方々一人ひとりのお話を聞く機会を設けて頂きました。そこで苦労したのが、「傾聴する」ということです。私は夏季の体験終了後に「質問力を身につける」ということを課題として掲げていました。そのため春季の体験では、対人基礎力向上の一環としてその点への意識も欠かしていませんでした。質問力を身につけるには、まず「傾聴」して、相手の話を理解するということが求められます。また今日、社会では「協働」という言葉がキーワードとなっていますが、この「協働」のためには、相手の立場や意見を傾聴し、理解するということが欠かせません。しかし実際に社会にでてみると、限られた時間の中で様々な方々のお話を理解するというのは、一見簡単なようで非常に難しく、特に初日は苦労することとなりました。

そこで体験の中盤から、この課題を改善するべく、私は様々な方々のお話をその場で理解するのではなく、一度自分で噛み砕いて考えるという時間を設けてから理解するという方法をとりました。職員の方から頂いた資料やインターネットを参考にしながらメモを見直し、疑問点を書きとめ、自分の腑に落ちさせるということを徹底しました。そして後日、疑問点について質問するという方法を行った結果、体験先の事業内容や知識的なお話だけでなく、なぜそのような考えに至ったのか、どのような思いを抱えているのかということについても理解することができました。これまで「質問力」と聞くと、その場で抱いた疑問点を聞くということに専念しがちでしたが、今回の体験で自分に合った方法を見つけることができ、改めて「傾聴」の重要性を実感することができました。また上述した自己課題についても、普段の表情や返事の仕方を意識することで効果を見出すことができたということから、以前よりも対人基礎力を向上させることができたと感じています。

このように、プレ・インターンシップでは、自分の短所を改善し、その効果を実感することができたり、今まで気付かなかった自分の長所に気付いたり、新たな課題が見つかったりということから自分の特性について知ることができ、自己理解を深めることにつながりました。同時に、社会人の方との関わりから他者理解の必要性を感じ、実際の職場でしか得ることのできない教養を身につけることができたということが自分にとって大きな収穫となりました。貴重な経験をさせて頂いた就業力向上支援室の方々、受入先の方々、関わってくださった方々への感謝を忘れずに、このプレ・インターンシップという体験を第一歩として、今後さらなる経験を積み重ねていこうと思います。

### 【39】田川市立図書館・大任町役場 特産品開発課

人間社会学部 人間形成学科 2年 隈井千尋

私は今まで、物事に対する意欲はあるが人に対して積極的になれず、コミュニケーションをとることが苦手だった。プレ・インターンシップに参加して、少しでもコミュニケーション力が上がればよいなと思い、今回初めてインターンシップに参加した。また、学生のうちに将来を意識して、希望している場所で働ける機会はめったにないと思い、自分が希望している場所なら、主体性や積極性が出て様々なことを学べると思ったからというのも、参加した理由の一つである。

実際にそれぞれの受入先で5日間働いてみて最も感じたことは、仕事の厳しさとコミュニケーションの大切さである。特に、自分でも苦手意識をもっていたコミュニケーションにさらに課題がみられたと感じた。仕事については、どちらの受入先も立ち仕事が多く、仕事をするには体力と忍耐力が必要だと感じた。失敗してしまった際、今回はインターンシップ生として参加したために甘くみていただいたところもあったと思うが、本当に職員として働いていたら責任をとらなければならなかったところもあったと思う。学生という立場に甘えていたところが自分にあったと思うので、反省している。コミュニケーションについても反省点が多くあった。質問や会話によってコミュニケーションをとることで、仕事に対する理解が深まり、職場の人との関わりや協力関係が強くなると考えていたが、インターンシップ中に自分の本来の性格が出てしまい、なかなか質問をしたり会話をしたりすることができなかった。コミュニケーション能力を改善したいと思ってインターンシップに参加したにもかかわらず、自分から動くことを躊躇してしまい、担当者の方からも注意されたので、深く反省した。アドバイスされたことを糧にして、これからの生活で頑張っていきたいと心から思った。

夏季、春季を通して、それぞれの受入先で自分のコミュニケーション力について指摘を受けたため、自分が本当に人と話すのが苦手なのだとということを実感した。今回の体験で、どのような職場においてもコミュニケーションが大事だということが改めてわかったので、これからの生活で少しでも改善できるように努力していきたい。まずは、普段一緒にいる仲のよい友人に自分から誘いかけをし、受け身になることを減らしていきたい。その後、慣れてきたらそれほど話したことがない人にも話しかけられるようになりたい。

もしプレ・インターンシップに行かなかっただら、働くことの大変さや仕事で褒められることの喜びを知らなかつたらと考える。朝早く起きて仕事に行く準備をし、夕方まで働き、次の日の準備をして寝るという日々を数日間経験してみて、社会人は自分のやりたいことを犠牲にしても働かなければならないということを実感し、非常に大変だと思った。同時に、自分より朝早くから出勤し帰宅は遅くなるという生活を、毎日当然のようにこなしている社会人の方々を尊敬した。また、自分の頑張りや努力を褒められることは、仕事のモチベーションを上げたりやる気を出したりするために非常に大切なことなのだと実感した。そのためにはまず、自分なりの努力と結果を出すことが必要だと感じた。今後の学生生活では、様々なことを意欲的に行い、毎日の授業で気になることを積極的に質問し、理解を深めたい。そして自分のやりたいことを意識しながら授業に取り組みたいと思う。また、まだ将来のことを明確に決められていないため、自分が後悔しないようにじっくり目標を考え、それに向かって頑張りたいと思う。受入先の方々には多大なるご迷惑をおかけして申し訳なかったが、自分を受け入れ、成長させてくださったことに感謝したい。

#### 【40】のがみプレジデントホテル・株式会社ヒューマンライフ

人間社会学部人間形成学科 2年田中李歩

私が大学生生活上で課題であると感じたことは、電話への苦手意識、敬語、コミュニケーション力、マナーについてである。また、インターンシップで目的としたことは、働く意義を考えることだった。そして、事前研修を受けることで、失敗をするということについての考え方が変わった。事前研修を受ける前は、如何に受入先に迷惑をかけないかということを考えていた。しかし、研修後は、失敗したとしても、とにかく自分から積極的に行動しようという意識に変わった。

電話対応の実習のとき、電話では相手の顔が見えないこともあり、コミュニケーションを取ることが非常に難しいという状況の中で、相手の気持ちを考え、相手が何を言おうとしているか捉えようとする姿勢が大切だということに気づいた。今まで電話をするときは苦手意識が勝り、早く電話を終わらせたい気持ちが強かったが、この姿勢に気付いたことで、少しずつ相手に合わせようと気をつけるようになった。また、クレームについて、クレームをくださるということはお客様が自分たちの会社に期待して下さっているという証拠であるため有難いものだという話を聞いた。今までアルバイト先で電話を取るときにクレームは嫌だ、という気持ちがあったため、見方を変えるとそのような考え方もあるということに納得できた。そして、受入先で苦勞したこととして、座学の際に自分の意見を述べるが多々あった。日常生活では、誰かが発言するのを待つてしまうことが多いため、自分の意見を述べることは難しかった。

インターンシップで頑張ったことは、分からないことがあったときには質問をすることである。今までは、タイミングを伺うだけ伺い、結局質問できなかった、ということも多々あったため、その点にも気をつけながら活動した。働くことの厳しさとして感じたことは、一人一人のお客様のことを考え、お客様が満足できるような対応をするために、期待されている以上のサービスを行うようにするということだ。私の受入先の方々は、私がインターンシップに訪れる前に、短期間でも一緒に働くメンバーとしての準備をしてくださった。例えば、社員の皆様が持っている会社に入るためのICカードを名前つきで用意してくださった。また、電話対応の前に行ったロールプレイでは、何人もの社員の方と一緒にいった。このようなインターンシップを通して自分が一皮剥けたと感じたことは、今までの自分の考え方とは違う観点からのお話が聴けたこと、今までに聴いたことのない話、体験から学び、気づき、自分の視野が広がったことである。

もし、今回のインターンシップに行かなければ、電話への苦手意識やものの捉え方なども変わらなかったと思う。一方、今回のインターンシップで一番嬉しかったことは、今まで自分が苦手だと思っていたことを逆に褒めていただいたことである。また、インターンシップが終わる日に電話対応の実習として入らせていただいた班の皆様から寄せ書きをいただいて、非常にあたたかい方々ばかりだと実感した。そして、インターンシップを通して働く意義について、誰かのために行うということ、幸せになるため、なってもらうためということを感じた。今後は、ボランティアや他の業界のインターンシップを通して様々な人と話す機会をもち、自分の感性を磨くだけでなく、視野を広げられるようにしたいと考えている。まだ他の業界のことについては知らないことばかりであるため、色々な業界を見た上で本当に自分がやりたいことは何か考え、決めていきたいと思う。このように、様々なことを学ばせていただいて、非常に充実したインターンシップとなり、株式会社ヒューマンライフに行くことができて良かったと思った。

#### 【41】児童発達支援センターきらり

人間社会学部人間形成学科 2年 津山 史

私がこのプレ・インターンシップに参加したきっかけは、普段の学生生活の中で社会経験の少なさに不安を感じていたからです。学校以外の人との関わりが少なく、さまざまな仕事観をもつ方との交流や自分の長所・短所の把握ができていませんでした。そのためこの授業を通して自分の能力の理解と社会観・仕事観の幅を広げようと思い、参加しました。準備すべきことや社会のルールなど何も分からず不安も多かったですが、事前研修で目的を具体的にすることや心構えなどを他の友達と一緒に確認できたので、準備をしっかりとってスムーズな流れでインターンシップに参加することができました。

実際に働いてみて、コミュニケーションや謙虚な姿勢を持つことが大切であると強く感じました。受け入れ先では子どもたちの支援というのが仕事だったので、毎日成長する子どもたちの情報共有はとても大切でした。それを円滑に進めるためにも、日頃の（利用者・職員さんとの）コミュニケーションが大切になります。10日間という短い間ではありましたが、子どもたちや職員さんとのコミュニケーションを大切にすることで、色々な気づきやアドバイスを得ることができ、自分のことをより理解できたと思います。また職員の方々の働く姿勢を見て、どんな立場に立ってもどんな仕事でも謙虚であることが一番大切だと感じました。学ぶ姿勢を持つことで、色々なことを吸収でき、成長できるのだと思いました。

受け入れ先の方で特にこうなりたいと思う職員さんと出会いました。私たちにも丁寧な姿勢で接してくださり、子どもたちに対しても愛情を持ってメリハリのある指導をされていました。短い体験期間の間でしたが一緒に働く中でその職員さんの仕事・子どもに対する姿勢は、私の進路にとっても強い影響を与えてくれました。また体験期間中、一緒に活動していた学生にもとても助けられました。お互いが指導されたことを共有することで、次にその活動をする際、言われる前に行動をすることができ、そこも褒めていただきました。同い年だったこともあり、お互いの行動が良い刺激になり、学び合う関係になれたこともとても大きい収穫でした。

事前研修から報告会を通して、本当に多くの学びがありました。事前研修では、社会一般のルールや体験中の姿勢。体験期間中は、自分の能力や職員さんの社会観・仕事観。報告会では、福祉職で大切なことや情報共有の大切さなどそれぞれの段階で様々なことを学びました。特に体験前後の活動は体験での学びをより充実したものにしてくれました。体験先のきらりさんは、私の進路に関わる場所だったので、インターンシップ以上の経験をすることができ、この授業に参加してよかったと思います。この進路に少し不安を感じてはいましたが、実際に働いて職員さんに就職をすすめられたことなどがとても大きな自信に繋がりました。忙しい中私たちのために動いてくれた受け入れ先や就業力向上支援室のみなさんに感謝を忘れず、この経験をこれからの学生生活の中で活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

## 【42】川崎町教育委員会・児童発達支援センターきらり

人間社会学部 人間形成学科 2年 平名 美桜

私は、大学生活を通して、自主性とコミュニケーション力、そして責任感に欠けている点が課題であると感じていました。これらの課題を踏まえ、夏季ではデータの作成などの事務作業と職員の方との交流を通して、春季では施設の子どもたちや先生方との関わりから、責任をもって自分に任せられたことをやり遂げること、積極的に質問し行動すること、その知識を吸収し次に活かしていくことを目標としました。また、各体験先の特性に焦点をあて、夏季では未知であった教育委員会の業務内容を知ること、春季では障害の理解と子どもとの接し方の習得も目標とし体験を行いました。

実際にそれぞれの体験を通して気づいたことは、事務作業にも意義と責任があること、職員の方と会話することの重要性、臨機応変に対応する能力の必要性です。多くの個人情報を取り扱う責任を実際に体感し、現場で働く職員の方の生の声から仕事への思いや大変さ、進路へのアドバイスなどの為になる情報を知り、また日々の変化に合わせて対応する頭の回転の速さを皆さんの働く姿から見ることができました。苦労したことは、質問をするタイミングを掴むこと、体験先のルールを覚え実行することでした。職員さんは目まぐるしく働かれており、タイミングを逃してそのまま見様見真似で実行してしまうこともありました。体験先のルールについては、たとえば、児童発達支援センターでは、問題行動に対して「ダメ」という言葉を遣わず、手で×を作ることで視覚的に分かりやすくしていました。しかし、思わず口から「ダメ！」と何度も出てしまい、そのたびに反省しました。頑張ったことは、効率よく業務を行えるように工夫を凝らすこと、一日の終わりに活動を振り返り、その日の学びを忘れずに次の日に活かすことです。職員の方の行動を見て聞いて盗み、学びを復習したことで、急遽、絵本の読み聞かせを頼まれた際も、臨機応変に子どもたちを楽しませることができました。働くことや社会人の大変さを感じたことは、共有しておかなければならない日々の連絡事項が多いこと、与えられた環境に適応しなければならないことです。

体験先の方々からの指導として、教育委員会では、社会教育についての理解の向上、児童発達支援センターでは、障害を持っている子と普通の子で区別をつけないことを教えて頂きました。これらの指導を踏まえ、ほどよく個々の障害を理解しながらも、障害を意識しすぎることなく子どもたちと関わることができましたと思います。さらに、私自身もともと目上の人や子どもと接することが苦手であったものの、これまであまり関わってこなかった人と関わることで、新たな知識を蓄えることができる楽しさを知ることができた点に純粋に成長を感じました。

もし、プレ・インターンシップに行っていなかったとしたら、社会人として仕事をするこの大変さや達成感を感じることに、周囲を気に掛けて助け合いながら働くこと、報告・連絡・相談をすることの重要さに気づくことができなかったと思います。生きていくために働くということは大前提に、人とのつながりや協調性を持つことから、相互作用が生まれることや一人では仕事を成し遂げることができないと知ること、課題を踏まえた目標の実現から自己を磨いていくことが、働く意義であると感じました。このような様々な学びの機会を与えてくださった大学と受入先の企業の方々には大変感謝し、この10日間で得た経験を今後の進路や社会を考えていく上で参考にしていきます。

### 【43】田川市立図書館

人間社会学部 人間形成学科 2年 松尾のどか

私は、平成30年2月15日～2月20日（19日は除く）の5日間田川市立図書館にプレ・インターンシップでお世話になった。私がプレ・インターンシップに参加した目的は、プレ・インターンシップを通して働くことの意義について理解を深めたいと思ったからである。また、職種に関係なく社会人に必要なスキルを見につけたいとも考えた。春期の体験先に田川市立図書館を選んだ理由は、子どもからお年寄りまで様々な人が利用する図書館で、人とのかかわり方について学びたいと思ったからである。

主な体験内容は、図書館の業務説明、カウンター業務（貸し出し、返却、配架、書架整理など）、新刊受け入れ作業、本の修理、BM（自動車文庫）についての説明、利用者への電話、絵本の読み聞かせである。図書館で実際に働いてみて気が付いたことは、平日の図書館の利用者はお年寄りが多く、学生などの若い人の姿がほとんど見られないということである。週末になると、試験勉強をしている学生や小さな子どもの姿がいくらか見られたが、やはりお年寄りの方が利用者数が多いと感じた。図書館の職員の方たちも、様々なイベントを開催して図書館の利用者を増やそうとしていて、私も体験中に、どうすれば学生などの若い人が図書館を利用してくれるようになるかということについての意見を求められたが、良い案が浮かばなかった。苦労したのは、本の予約の処理と電話である。本の予約処理は手順が複雑で覚えるのに時間がかかった。利用者への電話は、予約していた本の準備ができた時と、返却期限の過ぎた本の中に予約の本があった場合に行った。電話をかける前に、どのようなことを言えばいいのかアドバイスをもらっていたにもかかわらず、実際に電話をかけると言葉が出て来ずに間ができてしまうことがあった。

田川市立図書館では毎週土曜日にボランティアの方が絵本の読み聞かせを行っており、今回の体験期間中に土曜日があったため私も絵本の読み聞かせに参加させてもらった。体験1日目に担当の方からアドバイスを受けながら読み聞かせの絵本を選んだ。このとき、読み聞かせに向いている絵本と向いてない絵本があるということを初めて知った。本を選んだあとは、読み聞かせの仕方についての指導を受けながら練習をした。本番で読み聞かせをしたあと、職員やボランティアの方から子どもたちが話に聞き入っていたと言われて、家でも練習をした甲斐があったと思った。その他の業務でも、職員の方たちが業務について一つ一つ丁寧に説明をしてくれたり効率の良い方法を教えてくれたりしたおかげで大きなミスもなく業務を行うことができた。初日に、利用者の方への声かけをもっと積極的に行った方がいいとのアドバイスをいただいたので、次の日からは意識して声かけを行うようにした。

お金を稼ぐためというのも働く意義のひとつだが、人を相手にした仕事の場合、その人に喜んでもらいたいというのも働く意義として重要だと思った。今回のプレ・インターンシップで、今の私には積極性と自主性が足りていないということを実感した。そのため、これからは授業やサークルだけでなく色々なボランティアやイベントに参加して、様々な人と自分から関わっていくことが必要だと感じた。

#### 【44】大任町役場・田川市立図書館

人間社会学部 人間形成学科 2年 丸山 あきほ

私が今回プレ・インターンシップに参加させていただいたのは、プレ・インターンシップを通して、社会人の方とお話をさせていただいたり、一緒に業務をさせていただいたりすることで、コミュニケーション力を身につけ、仕事への具体的なイメージをつかもうと考えたからです。また、大任町役場を体験先として志望させていただいたのは、将来、市役所や県庁などの公的機関で働きたいと考えており、職場の雰囲気を感じとれるのではないかと思ったからです。また、春季の体験先として、田川市立図書館を志望させていただいた理由は、図書司書という仕事が気になっており、実際に図書館で作業をさせていただくことで、図書司書という仕事のイメージがつかめるのではないかと考えたからです。

体験中の業務内容としては、大任町役場では、敬老会準備や、窓口見学、生活保護受給の準備、窓口の書類整理などがありました。それぞれの業務で学んだことは多数ありましたが、その中でも特に私は、窓口見学をさせていただいた時に、来られた市民の方の中にはいろいろな方がおり、柔軟な対応が必要なのだということに気がつきました。例えば、生活保護を受給しに窓口へ来られた方の中に、精神疾患を患っている方がおり、私は、心理学を専攻しているものの、一度もそういった方にお会いしたことはなく、窓口で何か話されている時に、一生懸命役場の方が説明をしてもなかなか聞き入れていただけず、大きな声で話されているのを見て、驚くばかりでした。しかし、役場の方は、なかなか理解していただけなくても、丁寧に説明をされており、また、男性が近づくと不安になってしまうとのことで、ずっと女性の方が対応をされていました。体験前と体験後で変化したことは、体験前は、将来、公務員になることを目指すならば、公務員試験の勉強を一生懸命しておけばいいと考えていましたが、役場の方が、何年かに1回、希望をとり、担当するものや課が変わるということを教えてください、専攻している心理学はもちろん、他のいろいろな分野のことも幅広く勉強した方がいいのだということが分かりました。これからの学生生活では、さまざまな分野の講義を受け、わからないことは、図書館に行って調べるなどして、幅広い勉強をこころがけたいと思います。田川市立図書館では、カウンター業務、新刊装備、読み聞かせ会への参加、調べる学習、延滞者連絡、移動図書館(BM)の見学などをさせていただきました。体験前は、図書館の仕事がこんなにたくさんあるということを知りませんでした。実際に体験してみて、本離れが進む中で、どうしたら多くの方に図書館を快適に利用していただけるかなどを考えながら、いろいろな催しなどもされていることが分かりました。また、普段は大学の勉強やアルバイトなどで読書をする時間がないと感じ、読書を怠ってきましたが、調べる学習を通し、情報を得ることがどんなに大切かということを実感しました。最後に、参加理由となった、コミュニケーション力については、なかなか身につけることが難しいのだということを知りました。後期のプレ・インターンシップや、今後の学生生活を送るうえでの課題としたいと思います。

#### 【45】児童発達支援センターきらり

人間社会学部人間形成学科 2年 渡部懂子

この大学に入学して1年が経ち、学生生活に随分と慣れて、これから先の見通しを立てる余裕が出てきました。その時に最短で3年後には社会人になっていることに気づきましたが、現在の自分が働いている姿を想像することは出来ませんでした。それを可能にするためには、働くことの意義を知り、積極性を身につける必要があると感じ、それらを目的としてプレ・インターンシップに参加しました。私は大学で心理学を専攻しており、特に「障がい」に関心があったので、今回は児童発達支援センターきらり様を体験先として希望しました。体験するにあたり不安が数多くありましたが、開始前に事前研修があり、働く際のマナーや心掛けるべきこと、自分の目的の再確認を行い、不安をいくつか払拭して体験に臨むことができました。

体験の中で、支援者側に立ってみて初めて気がついたことがいくつもありました。まず、利用者さんが気持ちよく利用できるようにするための準備・後片付けの量が非常に多く、それらが重要だということです。準備には、利用者さんが居る時間の倍以上の時間を費やすことがほとんどでした。次に、支援の仕方は一人ひとり異なるということです。体験の中で、子どもたちのトイレや帰り支度の補助を行いました。一人ひとりどこまで出来るかが異なり、それぞれを深く理解していないと支援となる補助は行えないことを痛感しました。そして、子どもたちの要求を理解することは簡単ではないということです。この施設には障がいを持った子どもたちが通っていて、言葉を上手に使うことができない子どももいます。その子の要求を理解するには、目線や指先などの動きを注意深く見ておかなければなりません。しかし、1クラスには何人もの子どもがいるため、ずっと見ておくことができず、その子の要求に気づくことができないことが何度もありました。職員の方々を見ていると、視野を広く持って子どもたちの要求を拾い上げていました。この「視野を広く持つ」ということが重要だと知ることができました。

体験が始まる前には、職員の方が「仕事の厳しさを知ることよりも、子どもたちを楽しませることを第一に考えてください。」ということをお話ししてくださいました。そのおかげで、いかに子どもたちを楽しませるかを考えながら、10日間体験することができました。この言葉がなければ、仕事とはどのようなものかを知ることが第一の目的とした、自分本位な体験になっていたと思います。また、職員の方々には優しく、何気なくフォローをしていただいたり、疑問に思ったことに対応していただいたりしました。

プレ・インターンシップ体験前は、正直、大学の講義で学んだことがあれば、あとは就職後に身についていくだろうと思っていました。しかし子どもたちと関わっていると、その行動が障がいの特徴だと分かることもありましたが、今まで大学で学んできたような極端な特徴というのはほとんど見られず、文字で読むのと実際に見るのでは大きく異なるのだと知ることが出来ました。また、自分が得意だと思っていたことがそうでもなかったり、その逆だったり、自身に対する認識も変化しました。就職に対する不安の払拭をプレ・インターンシップの第一目的としていましたが、それ以上のものを得られたと確信しています。これからは、興味のあるボランティアや研修会に積極的に参加しながら大学生活を過ごして、より一層自身の世界を広げていきたいと思っています。最後に、このような有意義な体験を提供して下さった就業力向上支援室、児童発達支援センターきらりの皆様に感謝申し上げます。

## 【46】介護老人保健施設あけぼの荘

看護学部看護学科1年 佐藤 史織

大学生活を半年過ごして、私には2つの課題があると感じた。1つ目は友人以外とのコミュニケーションをあまりとっていないことである。私はアルバイトをしておらず、学校以外でのコミュニケーションをとる機会があまりない。看護師は様々な年齢の方と接する機会があると思うので、様々な方とコミュニケーションを取る方法を知るべきであると思った。2つ目は自分の現状を知らないということである。私はまだ看護師としての実践的な技術などは学んでいないが、この半年間大学で様々なことを学んだ。しかしこのことが身につけているかは実際に行わないとわからない。そのため私はそのような機会を設けるべきであると考えた。この2つの課題を解決、または解決の糸口を探すためにプレ・インターンシップに参加しようと考えた。事前研修を受けた時にはすでに事前訪問、プレ・インターンシップの半分近くが終わっていたため実際に生かすことはできなかったが、名刺の受け取り方や礼の角度、電話での対応など社会に出た際に必要なことを学ぶことができた。

私は活動してみて2つの点に気が付いた。1つ目は会話を長く続けることが難しいということである。活動は利用者の方々とのコミュニケーションが主であり、コミュニケーションをとる機会が多かったため話す時間が長く、続けることが難しかった。2つ目は介助の頻度、程度である。食事の際や移動の際などに最初から介助を行うのではなく、時間がかかるとしてもできる範囲を自分で行ってもらうことが残存機能を生かすために必要なことであると知った。活動の際には自分で仕事を探したり、コミュニケーションをとりにいたり、仕事がないか尋ねたりする積極性が大切であると感じた。ほかにもほかの職員の方にはそれぞれの仕事があり、自分のことは自分でしないと誰も気にかけてくれないところが学校とは異なると感じた。

私は上手にコミュニケーションをとることができなかったため、受け入れ先の方々がどのようにコミュニケーションをとっているのか観察してみたり、教えていただいたりした。ほかにも自分でもネットなどで調べてみたりした。その結果コミュニケーションをとる際には笑顔でいると相手に良い印象を与えやすいことや、高齢者の方々は耳が遠くなっているため低く、大きな声を意識して話すと聞き取ってもらいやすいことなどを知ることができた。ほかにも話題としては毎日変化がある食事の内容や天気の話、利用者の過去の話などがあることを知った。このことを意識して話すようにすると最初より上手にコミュニケーションをとることができた。

プレ・インターンシップに行かなければ私は自分の現状について知ることができなかったと思う。私は知識があっても、実際に行う際には行動のみに集中して知識を忘れてしまうことが多かった。したがって知識をより定着させることが大切であると思った。そのために講義を集中して受けたり、復習をこまめに行ったりすることが必要であるため今後の学校生活で行っていこうと思う。介助を行った際や会話を行った際に感謝をされたり、笑っていただけたりすると嬉しかった。このうれしいと感じることがやりがいであると受け入れ先の方がおっしゃっており、私も活動してみてそのとおりであると感じた。私も受け入れ先の方々のように相手に感謝される看護師になりたい。そのためまずは技術をしっかり身につけ、相手の様子にも気を配ることができるようになりたい。プレ・インターンシップを受け普段できないことを多く体験でき、自分のことを見直すことができた。このような機会を設けてくださった受け入れ先、大学には感謝してもしきれない。

## 【47】有限会社ラピュタファーム・川崎町立幼稚園

看護学科 1年 千々和那穂

私がプレ・インターンシップに参加した目的は様々な種類の職業にふれることです。現在、私は看護科に在籍しており、卒業後すぐに医療従事者として働くことを計画しています。そのため、学生生活の間で看護職以外の職業について知りたいと考えていました。プレ・インターンシップは福祉や公的機関、一般企業などの幅広い職場で業務を経験することができるという紹介され、自分のやりたかったことを実現できると考え参加を決定しました。

まず、夏季ではラピュタファーム様のもとでバイキングレストランのホールスタッフを経験させていただきました。受け入れ先では観光としての食事をいかに提供するのかをオーナーさんから教わり、実際の業務では連携におけるハウ・レン・ソウの重要性や店員が持つべき意識や気配りの在り方、指示待ち人間から抜け出す方法などを学び取ることが出来ました。特に指示をもらうためには相手に自分の仕事を信頼されることが必要であり、そのためには積極的な姿勢ややる気を行動と結果で示すことが一番効果的であると理解できたことは自分にとって大きな学びです。

春季では川崎町立幼稚園様のもとで幼稚園の先生として子どもたちとの触れ合いを経験させていただきました。3歳から6歳までの年少・年中・年長クラスすべてに入り、遊びや作品作り、学習を一緒に行うことで子どもの発達度合いの違いとそれに伴った子どもへの対応を学び取ることが出来ました。苦勞したことは子どもの体力に自分の体力が追い付かなかったことと、子どもが伝えたいことを察知し理解することです。時には遊びの誘いだけでなく喧嘩の対応や不調の対処、作品作りの手伝いなど様々な場面で必要でした。最初は知りたいことを口早に尋ねてしまい失敗していましたが5W1Hに分けて少しずつ聞く、話を反復して子どもと一緒に整理していくなど、改善することが出来ました。この方法は子どもだけでなく、どんな年代の相手でも通じると思います。

どちらの受け入れ先でも私を学生としてではなく1人のスタッフ、先生として受け入れてくれたため、ただ業務指示をもらうだけでなく実践的なアドバイスや成功点を教えてもらうことが出来ました。また、それらをもとに自分自身で問題点を発見し解決策を試行錯誤できるよう促してもらえたため想像以上の学びを得ること出来ました。前日出来なかったことを自分で考えた解決策で達成できた時は、とてもうれしく感じられました。

プレ・インターンシップを通して私は働く楽しみや社会人に必要な能力を知ることが出来ました。また、新しい発見だけではなく、私が今まで培ってきたコミュニケーション力や働くことへの意識が身につけていることも分かり、自分の自信も向上できました。これからの学生生活では交流の場やボランティアに積極的に参加し自分の世界を広げていこうと思います。私を受け入れてくださったスタッフや先生方、マナー講習など支援して下さった就業力向上支援室の方々、この度は本当にありがとうございました。

## 【48】くわみず病院

看護学部看護学科 1年 福永葵

私がインターンシップに参加したのは、将来の自分のあるべき姿を具体的に見出したいと思ったからです。私は常々自分が将来看護職に就く上で、その理想像を思い描きながら目標に向かうことをとても重要に感じていました。そのきっかけになることを期待してインターンシップに参加しました。事前研修では、あいさつの基本や電話での受け答え、敬語の正しい使い方など、働く上で最重要となる事柄を多く教わりました。

現場に出て色々な体験をさせていただく中で、研修で得たものを多く発揮することができました。特に挨拶は、複数の看護師の方からお褒めいただき、とても嬉しかったです。また、規則を守ったり時間を守ったりすることも、強く意識しました。その結果、それらで注意を受けたりすることはありませんでした。しかし、自分自身で不足していたと感じる事項もありました。それは、自分が任された業務をこなすのに精一杯で、なかなか自分から職員の方へ話しかけたりすることができなかったということです。各々が自分の仕事に責任を持ち懸命に行う現場では、なかなか突発的に話しかけたり、ましてや分からないことを質問することは容易ではありませんでした。しかしそのままでも解決はしません。勇気を出して質問すること、またその癖をつけて習慣づけることの必要性を改めて感じました。仕事ができることはもちろん大切ですが、何よりも大切なのはコミュニケーションがどれだけ上手くとれるかということ、また、その基盤となるのは人間関係だと学びました。

実際に、ある看護師の方からも「職場では、人間関係が一番大事だよ。」とお言葉をいただきました。この事は私にとって最も印象に残りました。そして、少しずつコミュニケーションをとるよう努力しました。初日と最終日ではまるで違ったように思います。挨拶の徹底から始まり、最後の数日には自分から看護師の方々や患者さんに話しかけることができるようになりました。周囲から見ればわずかな変化だったと思いますが、自分の中では大きな成長でした。このような成長は、元をたどれば事前研修の成果だったように思います。挨拶の練習を徹底的に行ったことでコミュニケーションの基盤となる物ができたのだと考えます。

10日間の研修は私にとってとても貴重な経験であり、同時に私自身を成長させてくれたものとなりました。働く上でのコミュニケーションの重要性や積極性の必要性、またそれらが自分には足りていないことなどがよく分かりました。これは、インターンシップに参加したからこそ学ぶことができたのだと思います。これからの学校生活で、コミュニケーション能力を今より身につけ、積極的に行動できるよう努力したいと思います。今年から本格的な実習が始まりますので、その際にも今回学んだことを活かし、さらなる学びに繋がりたいと考えています。最後に、このような機会を設けてくださった福岡県立大学と、沢山相談に乗っていただいた就業力向上支援室の職員の方々、そして何より受け入れ先として大変お世話になったくわみず病院の皆様に感謝申し上げます。この貴重な経験を、精一杯今後活かして参りたいと思います。本当にありがとうございました。

#### 【49】田川市立病院・田川カトリック幼稚園

看護学部看護学科 1年 吉岡 怜子

私は大学生活において、初対面の人と接する難しさや、社会でやっていくための知識や経験不足を感じていた。また、どのような看護師になりたいかという具体的なイメージを持たずにいた。そこで、幅広い年代の人と接し、社会人として必要なマナーを学ぶこと、そして、リアルな医療現場を体感することの二つを主な目的としてプレ・インターンシップに参加した。事前研修では、相手に不快を感じさせないためのクッション言葉とその使い方を学んだ。また、先方とのメールや電話でのやりとりは、戸惑うことも多かったが有意義な経験だったと感じている。

病院では、総合受付や医療事務の作業をしたり、訪問看護の見学に行ったりした。幼稚園では、見習いの先生として5日間、満3歳児クラスで園児と一緒に遊び、読み聞かせやおままごとを行った。受入先が病院と幼稚園だったこともあり、両実習先で共通して、命を預かっている仕事の責任の重さを痛感した。特に病院では、事務作業自体は慣れたら簡単だったが、そこで扱う患者さんやその家族の個人情報の重さを感じ、実習生である私達がどこまで携わっていいのか分からず、自分から仕事を探すことに苦労した。一方で、気持ちの良い挨拶と、疑問をそのままにせず質問することは心がけることができたように思う。また、幼稚園では、子供達がケンカをしてしまう場面に何度か遭遇したのだが、その際、なぜケンカしたのかなどの子供達の話の聞き、例えばおもちゃを取った子がいたら、なぜおもちゃを取ったらダメなのかなどをきちんと伝え、仲直りするよう促すことができた。ケンカして泣いていた子供達が一緒に楽しそうに遊び出す姿を見ることができたとき、少しは園児の成長の手助けができたかな、と感じた。園児一人一人性格が違い、日によって気分も変わるため、対応が正しいのかどうか常に不安ではあったが、「平等に対応すること」や「怒るときは理由をきちんと説明すること」、「言葉遣いに気を付けること」などを自分なりに心がけて実習に臨むことができた。

病院で医療事務作業をしていた際、作業スピードも大事だが、病院が扱う情報には重要な個人情報が含まれているため、作業の正確さが最優先だと教えていただいた。また、訪問看護の見学をした際には、ただ患者さんの側において話を聞いたり、手を握ったりするだけでも患者さんにとっては安らぎになると教えていただいた。看護師として働くときに、病院を支えている医療事務の方々の存在やその業務内容を知っておくことは、業務連携していく中で、お互いの仕事をスムーズに行うためにも重要だと学んだ。幼稚園では、トイレや食事、着替えの場面において、子供達が「できない」、「やって」と甘えてくることもあり、つい手を貸したくなる気持ちも出てくるかもしれないが、自分でできることは自分でさせることが子供の成長を支える上で重要であることを教わった。前述のように、対応が正しいか分からず不安もあったが、最終日に先生方が「実習期間じゃなくても毎日来てほしい」「保育士にならないのがもったいない」と言ってくださって、とてもありがたかったし、ホッとした。

社会人としての経験や知識、さらに看護師としての知識、経験はまだまだ十分ではないが、アルバイトでは感じることもない責任感を実感することができた。なりたい看護師像はまだ明確ではないが、幅広い年代の患者さんやその家族とフラットに話せる人になりたいと感じた。そのためには、現在自分が取り組んでいる英語や中国語だけでなく、手話なども学ぶ必要がある。さらに、子供などに分かりやすく物事を伝えるために、たくさんの言葉を知り、理解しておくべきだとも感じた。

【50】福島生協病院・田川市立鎮西小学校

看護学科1年 吉見恵里佳

私は、大学生活の中で、コミュニケーション力があまりないと感じていた。夏季のプレ・インターンシップをした際にも、患者さんと話すときにもっとコミュニケーション力があれば話が続けるのという思いがあった。そのため春季ではコミュニケーション力と将来小児科の看護師になりたいという思いから、児童理解力を高めるため小学校でのプレ・インターンシップに参加した。

実際に体験してみて、私は子どもの積極性にびっくりした。自分から積極的にコミュニケーションをとっていこうと思っていたのに、子ども達の方からどんどん話しかけてきてくれ、びっくりした。しかし、みんな積極的なわけではなく、おとなしい子もいる。そのため、そういう子を中心に声をかけていくと次からその子どもどんどん話しかけてくれるようになり、積極的に関わることの重要性を学んだ。また、クラスで喧嘩が起こった時にどう止めていいかわからず、苦勞した。みんなそれぞれ個性があり、関わり方が無限大にあるから、それぞれに応じた対応力を身につける必要があると感じた。しかし、何よりも重要なことは、心から関わることだと感じた。心から関わると相手も心を開いてくれる。誰に対しても心から真剣にその人と向き合っただけで関わろうと思った。夏季では、看護師の後ろについて見学をすることがほとんどであり、看護の知識は増えたが、自分自身に身についた力をあまり感じる事が出来なかった。しかし、夏季で反省したことを春季で意識して身につけることができたから、夏季と春季に両方体験して良かった。両方意識して心掛けたことは常に笑顔でいることである。第一印象は非常に大切であり、実際に夏季も春季も笑顔が素敵だねと褒めていただいたのがうれしかった。日常生活でも笑顔を忘れずにしていきたい。

春季で私は、4年1組に主に入っていた。最後の日に1組のみんながサプライズでお別れ会を企画してくれて、本当にうれしかった。生徒が全部企画、進行してくれた。そして最後には、手紙と歌のプレゼントまでしてくれた。多くの思い出がよみがえってきて、涙が止まらなかった。みんなと接して多くのことを学び、一生忘れられない思い出ができた。本当に鎮西小学校に行けてよかったと思う。子どもと関わる楽しさを再確認でき、小児科の看護師になろうという思いがより一層強くなった。就業力向上支援室の方たちにも、書類をどう書いていいかわからないときに優しく教えてくださって、とても心の支えになった。

プレ・インターンシップに行かなかったら、1年生は座学だけの看護の知識しか得ることが出来ず、あまり身につかなかったと思う。しかし参加することによって、大学で勉強した際に、夏季に病院で見たなというように思い出すことができ、より深く学校での勉強が身についた。夏季、春季と通して小児科の看護師になりたいという思いがより強くなり、プレ・インターンシップに参加して本当に良かった。参加していなかったら、将来のはっきりした目標を持ってないまま、2年生になっていたと思う。これからプレ・インターンシップで学んだことを学校生活に生かしながら、看護師になれるように頑張っていきたい。

受け入れ先や就業力向上支援室の方には、多くのことを教えてもらったり、支えてくれたりして本当に感謝しています。ありがとうございました。

## 【実践1】 . インクル春ヶ丘 カフェぽぽっと

人間社会学部社会福祉学科 2年 椎場香菜子

私は、就労継続支援 B 型事業所に興味を持っており、そこで働いている障害者はどのような仕事をしているのか、どのような目的を持って働いているのか、職員はどのように障害者と関わっているのか、障害者に対する支援の方法を学ぶことを目的として参加した。

第 1 期で実際に働いてみて、就労継続支援 B 型事業所のカフェで働く職員の仕事は、カフェの店員として客への対応をしながら、利用者に対する支援を行わなければならないので大変だと感じた。忙しいにも関わらず、職員は客に楽しんでもらいたいという思いから、明るい雰囲気をつくるように心がけていらっしやっただので、すごいと思った。カフェで働く利用者の中には、将来普通のカフェで働くことを目標としている方がおり、その方は週のほとんどをカフェで働いていたことから、利用者の思いを尊重する支援が行われていると思った。カフェでは、職員も利用者も一人一人が役割を持っており、チームとなって働いていることが分かった。そのため、一人一人が責任を持って行動することが重要だと感じた。第 2 期では、課題解決に取り組む中で、自分達を感じた課題に対して、限られた時間やコストで解決策を提案することがとても難しかった。

第 1 期の初めは、利用者とどのように接したら良いのか分からなかったが、名前を早く覚えてできるだけ名前を呼んで話をするように心がけた。職員から「普通の人と接するように関わると良いよ」と助言をいただき、自分から積極的に声をかけられるようになった。第 2 期では、課題解決に向けて提案を行う際に、自分達が考えた取り組みが既に行われていてあまり上手くいかなかったことを聞いたり、お金がかかりすぎると利用者の工賃に影響を与えるという話を聞いたりしてなかなか改善策を思いつかず悩んだ。そこで、就業力向上支援室に相談した。すると、「他の店はどのようにしているのか、まずは情報収集をしてみたら」と助言をいただいたので、インターネットを使って調べた。調べていく中で、ヒントがたくさんあり、複数の改善策を考え提案することができた。改善策を提案する際には、自分がよく理解していないと相手にも理解してもらえないと思ったので、試作品を作って持って行き、どのように作るのか、どうしてこのようにしたのかななどを説明できるようにした。事業所から「複数の改善案の提供や試作品があったためイメージしやすかった」と評価をいただけて、嬉しかった。

課題解決に向けて取り組む中で、業務一つ一つに意味があるということを学んだ。普段の生活では、色々なことに対して意味を考えずに評価するだけだったので、実践型インターンシップに参加しなければ気がつかなかったと思う。課題解決に向けた取り組みが全て良かったわけではなかったが、利用者や客から評価していただいた時はとても嬉しかった。良い点、悪い点を含めて見直し、次につなげていくことが重要で、仕事は試行錯誤の繰り返しなのかもしれないと思った。また、社会人として働く方々は、今やっていることに対して満足するのではなく、作業をする中で出てきた問題や課題に対処し、より良くなるように動いていると思った。実践型インターンシップに参加したことで、友達と協力しながら、自分なりに考えて動くことができるようになったと思う。しかし、先を見通した計画を立てたり、余裕を持って行動したりすることがあまりできなかった。先を見通した計画を立てたり、余裕を持って行動したりすることが、新しく出てきた課題に対処できたり、修正を行えたりすると学んだので、今後はスケジュール管理をしっかりして色々なことに臨機応変に対応できるようにしたいと思う。

## 【実践2】

### インクル春ヶ丘 カフェぽぽっと

人間社会学部 社会福祉学科 2年 下野晏奈

私はこの中長期・実践型インターンシップで障害者が働く環境を理解し、カフェをより良くすること、社会人基礎力や課題解決力を身につけることを目的としてインターンシップに参加した。

この中長期・実践型インターンシップは第1期に仕事理解型として就労継続支援B型事業の一環であるカフェ事業に参加して実際に体験してみる、第2期に課題解決型として第1期にカフェ業務を実際に体験したうえで課題を挙げ解決するという内容であった。第1期ではカフェ実習ということで接客やレジ打ちなどのカフェ業務や、一緒に働く利用者との関係をつくることを心がけ参加した。実際に働いてみて、カフェの混雑時に利用者とお客さんをよく見て行動することが難しく料理の優先順位を間違えてしまい、利用者を混乱させてしまうなど適切なサポートができていなかったのではないかと感じた。また、一緒に働く利用者との関係づくりという点では、利用者と実際に仕事をしていくなかで様々な個性や良いところなどがあることが分かった。そしてそれらを理解し納得したうえで話し方や接するときの態度、カフェで利用者を支援することの役割を考えていかなければならないと感じた。第2期では第1期で感じた課題2つに対して自分たちで改善策を考え、職員の方と話し合い試行錯誤しながら実践するという難しい活動だった。自分たちで課題を発見してそれを解決していくことや職員の方が日々の忙しい業務の中で新しいことに取り組むこと、自分たちで計画をたてること、課題を解決するうえで利用者やお客さんにいかに分かりやすく行動してもらえたり、見てもらえたりするかなど実践として活動していくなか、自分たちで考え、同時に実行・行動していくことが特に苦労した部分である。また、大学の授業の空いた時間を使っての活動であったが、テスト前や自分の予定などで忙しいときは活動に対して気持ちが乗らないことがあったり、公共交通機関で移動するため活動する前から疲れてしまったりなど平常心やモチベーションを保つこと、体調管理をすることが難しく感じた。

その一方で、一緒に活動を頑張る友人がいたからこそ私自身も疲れた、嫌だと言っていられないと思うこともあったり、頑張らなきゃいけないとお互いに励ましあったりしたことが、この中長期・実践型インターンシップを乗り越えることができた最大の勳章である。また、受入先や就業力向上支援室の方には、改善策を考える際や、実践をしていく中でここはこうしたらよいのではないかといったこと、利用者との接し方やサポートの仕方などに対しての助言をいただいたりうまくいかないこと、活動をやることに対しての不安などに相談にのってもらえたりしたこともこの中長期・実践型インターンシップを乗り越えることができた理由の1つではないかと考える。そして中長期・実践型インターンシップがより良いものとして私自身の経験にプラスされたことが何より大きいと考える。

私は、この中長期・実践型インターンシップで様々なことを経験し、自分自身をより一層成長させることができた。具体的には課題解決力や自主性、積極性の向上である。積極的に自ら動いていかないと何もはじまらないと学び、それを活動のなかで生かすことができた。もし中長期・実践型インターンシップに参加していなかったら、今の自分はいなかったと思うほどである。これからの学生生活で充実した生活を送るためにも、現状に満足せず向上心をもって何事にも頑張りたい。

私は、7日間の日程で夏季インターンシップに参加しました。研修先の株式会社タケノは、居酒屋「竹乃屋」をはじめとした飲食店の運営や、養鶏農場で生産した「つまんでご卵」という卵の提供、販売等を行っています。私は、株式会社タケノが自社生産の卵をはじめ、安全・安心にこだわった食材を使用していることに共感し、また、企画や商品開発に興味を持っていたことからインターンシップへの参加を決めました。そして、インターンの目標として、発信力などといった自分の弱みの改善のため努力することと、業務内容を確実に実行することを設定しました。インターン活動内容は、「つまんでご卵」を使ったスムージーの開発と、インターンの成果発表のスライドを作成し、発表するというものでした。今回の参加者は私と他大学の学生の計5名で、私達はインターン期間のうち、1日2、3名が入れ替わりで出勤し、業務を行うこととなりました。

続いて、商品開発、発表資料作成の二つの活動について説明します。一つ目の商品開発は、根気強く何度もチャレンジが必要で、大変な業務でした。

私は商品開発3日目からの参加で、前半は、他の学生から、材料の準備方法や分量表の書き方を教えてもらい、作業についていくことに必死でした。私は主体的に作業を行う他の学生に圧倒され、「次は何をすればいい？」と尋ねながら作業に加わることが多かったです。また、何度試作を重ねても、食材の組み合わせ方や分量によって失敗することも多く、なぜうまくいかないのか反省を共有しました。後半は、前半に私を引っ張ってくれた学生と新しい学生が入れ替わるため、今度は私が商品開発について教える立場となりました。教えるということに苦手意識はありましたが、試作の手順などを自分なりに説明しました。また、今までの試作結果を一つにまとめ、成功案を再び試作、味の最終調整を行いました。その際、他の学生と話し合い、卵を半量にするなどの工夫を行い、改善を試みました。その結果、ほとんどのスムージーが飲みやすくなり、試飲していただいた社員の方々にも「飲みやすい」という声をいただき、学生みんなで考え、悩んだレシピが完成に近づくことに喜びを感じました。

二つ目の発表資料作成では、相手を思いやり、発表を聞く人の立場に立った資料作りが大切だと感じました。

私は、発表でスムージー試作の箇所を担当しましたが、最初に作成した資料は担当の方から全く駄目だのご指摘を受けました。そのなかでも、プレゼンを初めて聞く方への思いやりに欠ける、発表者が自信を持って発表できていないという言葉にはっとさせられました。なぜなら私は、プレゼンを完成させることを優先し、スムージー試作の工夫点や苦労点など、プレゼンを聞く方が一番知りたいであろう情報をしっかりと伝えられていなかったからです。また、発表資料が不十分であることが不安で、原稿を読む声にも自信のなさが出ていたからです。失敗を踏まえ、発表資料の改善に取りかかりました。その際、他の学生におすすめしたいスムージーや試作時の苦労や工夫を聞き、資料に取り入れるようにしました。そして、何とか資料を完成させ、発表当日は本番直前まで原稿の読み合わせを行い、スムーズに発表することができました。

商品開発や成果発表という今回のインターンの活動を通し、企画や商品開発の大変さ、相手への思いやりの大切さなどを実感することができました。また、人前で自分の考えを話す、参加学生たちに自分から相談して発表資料を改善するなど、今まで自分が苦手だったことと向き合い、その改

善のために努力できました。インターンの振り返りでは、課題発見力や計画力といった「考え抜く力」と考えた意見を相手へわかりやすく伝える「発信力」が不足していることが分かりました。今後はこれらの課題を改善するため、インターンやボランティアなど、様々な経験の中で、小さな課題を発見し、解決策を考えることと、自ら積極的に発言し、相手がわかりやすいようにポイントに絞った話し方を意識して、何度も繰り返し行っていきたいと考えています。